

科目名 【英】	キャリアデザイン講座 1 Course of career Design 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3.4

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	---

学習内容	医療系学生としての目標の設定、日々の過ごし方、また医療人としての心構えや、社会に向けての心構え意識付け、一流の選手の考え方や行いを、座学やセッションを通して学ぶ。
到達目標	医療系学生として、どこに出しても恥ずかしくないレベル、かつ卒業後社会人として即活躍できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	その日の授業を、帰宅後の振り返りやワークで不完全な部分を完成させる。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	(授業内) 筆記試験 100%
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	メンタル導入部	考え方やメンタルの重要性に気づき、今後の授業に役立てる。	
2	目的、目標セット	個人の目的、目標を明確にし、日常生活のあり方に役立てる。	
3	メンタルブレイントレーニング1	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。	
4	メンタルブレイントレーニング2	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。	
5	栄養学からみる内臓の仕組み	栄養学からその栄養がどのように体に使われているのかを知ること、内臓の仕組みなどに興味を持ち学ぶ事ができるようになる。	
6	勉強の仕方1	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気づき工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。	
7	勉強の仕方2	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気づき工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。	
8	経営の為の知識	独立開業に当たってのお金と経営に関して、その関係性と意味を学び、経営には何が必要かを説明できる。	
9	柔道整復師の仕事について	自分がなろうとしている、柔道整復師とはどんな仕事をするのかを画像を踏まえながら創造し、自分がなりたい柔道整復師像を具体的に説明できる。	
10	スポーツエンタメトレーナー1	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーとはどんな仕事をするのかを説明できる	
11	スポーツエンタメトレーナー2	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーには、どんな技術や考えが必要かを説明できる	
12	高齢者からみる柔道整復師の役割	高齢者の特徴を学び、柔道整復師がどのように関わるべきかを説明できる。	
13	筋力トレーニングから見る解剖	筋力トレーニングに必要な筋肉の起始停止を学び実践できる。	
14	筆記試験	今までの学びを振り返ることで半期の自分の成長を知ることができる。	
15	マナーとなぜ仕事をするのか?	筆記試験の振り返りとともに、社会人としてのマナーの必要性和、なぜ仕事をするのかについて考え半期の授業の気づきの集大成とする。	

科目名 【英】	柔整総論 1 General Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	1.2

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復学総論（骨折について）を学ぶ。
到達目標	骨折の総論部分を人に説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の教科書を読み込んでおく。
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第7版
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	小テストを1回実施する。【期末試験90%、小テスト10%】
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		人体に加わる力	柔道整復師への到達目標（オリエンテーション）を行い各自設定させる。 人体に加わる力について説明することができる。
2		損傷時に加わる力	損傷時に加わる力について説明できるようになる。
3		骨の形態と機能	骨の形態と機能について説明できるようになる。
4		骨損傷の概要	骨損傷の概要について説明できるようになる。
5		骨折の分類	骨折の分類について説明できるようになる。
6		骨折の症状	骨折の症状について説明できるようになる。
7		骨折の合併症	骨折の合併症（併発症・続発症・後遺症）について説明できるようになる。
8		小児骨折	小児骨折の特徴について説明できるようになる。
9		高齢者骨折	高齢者骨折の特徴について説明できるようになる。
10		小テスト	前回までの範囲の理解度を確認し、もう一度知識の認識を行う。
11		骨折の治癒過程	骨折の治癒過程について説明できるようになる。
12		骨折の予後	骨折の予後について説明できるようになる。
13		骨折の治癒に影響 を与える因子	骨折の治癒に影響を与える因子を説明できるようになる。
14		全範囲の復習	全範囲の理解度を確認し、試験に向けた対策を行う。
15		試験解説	骨折総論で知っておくべき知識の再確認、ポイントを説明できるようになる。

科目名 【英】	柔整総論 2 General Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1		前期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	金釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復師における治療法（整復法、固定法、後療法）及びこれらに伴う指導管理と外傷予防を学ぶ。柔道整復師本来の治療法のみならず現代的医療にかかわる外傷に対する予防法や初期処置を学ぶ。
到達目標	柔道整復師における診察、治療法（整復法、固定法、後療法）に対する基礎的知識の習得ができる。臨床現場において指導管理及び初期処置、外傷予防の理念を理解し活用できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔道整復師の沿革	柔道整復師の歴史、業務範囲についての説明ができる。
2		治療法 1	骨折の整復法について整復時の配慮の理解と説明ができる。
3		治療法 2	骨折の整復法について整復法の分類、適応、不適応について理解と説明ができる。
4		治療法 3	脱臼の整復法について整復法の分類、適応、不適応の理解と説明ができる。初期処置（RICE）の意味の理解、説明ができる。
5		治療法 4	固定法についての配慮、目的、範囲、期間、肢位等の理解と説明ができる。
6		治療法 5	固定法についての指導管理の理解と説明ができる。
7		治療法 6	手技療法の分類、目的、配慮、禁忌についての理解と説明ができる。基本的手技が行える。
8		治療法 7	運動療法の配慮、基本型について理解説明ができる。
9		治療法 8	運動療法の種類、応用、禁忌について理解説明できる。
10		指導管理	外傷予防に対する日常生活動作、患者環境に対する指導管理の内容の理解と説明ができる。
11		外傷予防 1	外傷予防の分類と外傷予防の第 1 段階の意味、内容の理解と説明ができる。
12		外傷予防 2	外傷予防の第 2 段階、第 3 段階の意味、内容が理解説明できる。
13		診察 1	診察時の注意点、手順（病歴聴取の進め方、身体診察の流れ）の離解説明ができる。
14		診察 2	診察の時期による分類、治療計画、施術録の扱いと記載についての理解と説明ができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔整総論 3 General Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1		前期	曜 日	月曜日	時 限	3.4

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	-------	-------	-------------------------------

学習内容	軟部組織の損傷を理解するのに必要な関節構成組織、捻挫、脱臼の分類、発生機序、治癒過程などについて学習する。
到達目標	解剖学の骨筋とリンクできるよう関節の構造、動きのメカニズムを理解し説明することができるようになる。 軟部組織の損傷から治癒に至る経過の理解をし説明することができるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に骨・関節・筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）、解剖学教科書
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		関節の構造と機能 1	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
2		関節の構造と機能 2	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
3		関節の構造と機能 3	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
4		脱臼 1	脱臼の定義、各種分類を理解し説明できるようになる。
5		脱臼 2	脱臼の各種分類、症状を理解し説明できるようになる。
6		脱臼 3	脱臼の合併症を理解し説明できるようになる。
7		脱臼 4	脱臼の整復障害を理解し説明できるようになる。
8		脱臼 5	脱臼の経過と予後を理解し説明できるようになる。
9		関節構成組織の損傷 1	靱帯損傷について理解し、説明することができるようになる。
10		関節構成組織の損傷 2	関節損傷の分類について理解し、説明することができるようになる。
11		関節構成組織の損傷 3	靱帯、関節包の損傷について理解し、説明することができるようになる。
12		関節構成組織の損傷 4	関節軟骨の損傷について理解し、説明することができるようになる。
13		筋の損傷 1	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。
14		筋の損傷 2	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。
15		試験解説	前期試験解説を行い忘れていた内容を再確認する。

科目名 【英】	柔整基礎講座 1			必修/選択	必修	授業形式	演習
	Course of Basic Judo Therapy			総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	1.2

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	2015/4～2020/3 接骨院にて勤務
------	--------	-------	-----------------------

学習内容	柔道整復師にとって必要な解剖学(神経と感覚器)の基礎を学ぶ
到達目標	ヒトを動かすメカニズムの一旦を担う神経に興味を持ち、構造を説明することができる。

準備学習 時間外学習	教科書を読む
使用教材	南江堂（解剖学）資料ノート
留意点 備 考	

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	1/0	オリエンテーション	ヒトの身体の仕組みを知り、勉学に対する更なる意識付けを行う。
2	1/0	神経①	神経系とは？との概論に説明することが出来る。
3	1/0	神経②	神経細胞について説明することが出来る。
4	1/0	神経③	神経にまつわる解剖学用語について触れる。脊髄構造を説明出来るようになる。
5	1/0	神経④	脳幹構造について説明出来るようになる。
6	1/0	神経⑤	間脳構造について説明出来るようになる。
7	1/0	神経⑥	大脳構造について説明出来るようになる。
8	1/0	神経⑦	頸神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。
9	1/0	神経⑧	腕神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。
10	1/0	神経⑨	腰神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。
11	1/0	神経⑩	仙骨神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。
12	1/0	神経⑪	自律神経系について説明できるようになる。
13	1/0	感覚器①	視覚器構造について説明できるようになる。
14	1/0	感覚器②	聴覚器構造について説明できるようになる。
15	1/0	まとめ	前期の総復習を行い、相手に説明するプレゼンテーション

科目名 【英】	基礎包帯固定学 1 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	3.4

担当教員	岩崎英明 、 竹田英樹	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	-------------	-------	-------------------------------

学習内容	基本包帯を巻けるようになる。 アルミ副子、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。
到達目標	基本包帯を巻けるようになる。 樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。

準備学習 時間外学習	時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	導入 1	実技ガイダンス 包帯の巻取り	
2	導入 2	包帯学を学び、説明できるようになる。	
3	指の包帯 1	隻指帯が巻けるようになる。	
4	指の包帯 2	全指帯が巻けるようになる。	
5	指の包帯 3	指頭包か帯が巻けるようになる。	
6	指の包帯 4	母指上行麦穂帯が巻けるようになる。	
7	指の包帯 5	総指包か帯が巻けるようになる。	
8	指の包帯 6	復習（これまでの包帯法を思い出し、名称を言われただけで目的の包帯法を行うことができる）	
9	評価	中間評価、緊張感を持った状態で患者に巻くことができるレベルに近づけることができる。	
10	手関節の包帯	手関節上行麦穂帯が巻けるようになる。	
11	前腕の包帯	前腕の包帯が巻けるようになる。	
12	固定具	アルミ副子の基本的な使用方法、注意点を習得する。	
13	総復習	隻指帯、全指帯、指頭包か帯	
14	総復習	母指上行麦穂帯、総指包か帯、手関節上行麦穂帯	
15	まとめ	試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。	

科目名 【英】	柔整解剖 A Anatomy of Judo Therapy A			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3・4
担当教員	小田垣 典行	実務者経験	2003年4月からおだぎ鍼灸整骨院にて従事する。 現在に至る。				
学習内容	骨の基本的構造、骨の名称、骨の各部の名称、各関節の構造を学ぶ。						
到達目標	骨の名称、各部の名称を覚え、体表からその位置を理解し熟知することができるレベルに到達し、後期の筋の理解に役立つようにする。						
準備学習 時間外学習	前時間の復習（特に漢字で書けるようにすること）を行う。						
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	授業毎に次回に小テストを実施。期末試験80%＋小テスト20%で評価する。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	骨 1	総論（骨の役割・形状・表面に関する用語） 上肢骨の構成 長骨・短骨など違いを理解し、上肢骨の構成を理解する。	
2	骨 2	総論（骨の構造・成長） 各論（肩甲骨） 骨の構造を理解し、肩甲骨の名称を知り体表から熟知できるようになる。	
3	骨 3 人体解剖学概説 1	人体の区分（P17） 総論（成長） 各論（鎖骨・上腕骨） 人体の区分や区分線や骨の成長を理解し、鎖骨・上腕骨の名称を知り体表からの熟知できるようになる。	
4	骨 4 人体解剖学概説 2	器官系統（P17） 各論（橈骨・尺骨） 器官系を理解し、橈・尺骨の名称を知り体表から熟知できるようになる。	
5	骨 5	各論（手の骨・胸骨） 手根骨の名称と位置関係を知り体表から熟知ができ、肋骨切痕と胸骨角の関係を説明できるようになる。	
6	骨 6・関節 1	各論（肋骨・上肢の関節） 真肋と仮肋と浮遊肋の違いと上肢の関節の名称とそれに付属する靭帯・関節の動き知り説明できるようになる。	
7	骨 7	各論（寛骨・大腿骨・膝蓋骨） 腸骨・坐骨・恥骨・大腿骨の名称の理解と体表から熟知できるようになる。	
8	骨 8	各論（脛骨・腓骨・足の骨） 脛骨・腓骨・足の骨の名称の理解と体表から熟知でき、足根骨の位置を説明できるようになる。	
9	関節 2	各論（股関節から膝関節） 股・膝関節の名称と付属する靭帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。	
10	関節 3・骨 9	各論（足関節・椎骨の基本的構造） 足関節に付属する靭帯と関節の動きと椎骨の基本形を理解し説明できるようになる。	
11	関節 4・骨 10	各論（頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・骨盤） 頸椎の特別型・胸椎・腰椎の構造や分界線を理解し説明できるようになる。	
12	骨 11	各論（頭蓋骨の分類・側頭骨・後頭骨・下顎骨） 頭蓋骨の有無、側頭骨・後頭骨の名称の理解し説明できるようになる。	
13	骨 12・関節 5	各論（頭蓋骨・脊柱の連結） 頭蓋骨の名称や眼窩を構成する骨や泉門、脊柱と頭蓋に付属する靭帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。	
14	関節 6 体表解剖	各論（胸郭の連結） 胸郭の関節の名称と付属する靭帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。 体表解剖P275～280：体表から骨の隆起、突起等を熟知できるようになる。	
15	テスト解説・筋	テスト解説 骨格筋の総論：起始・停止・動きの理解し説明できるようになる。	

科目名 【英】	柔整生理 A Physiology of Judo Therapy A			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	正常な人体機能（主に運動器系に関する）を学び、柔道整復について考える。
到達目標	1. 神経の基本的機能について説明できる。 2. 神経系の機能を説明することができる。

準備学習 時間外学習	授業終了時に次回の授業範囲を伝えるので余裕があれば予習をしておくこと。 教科書または復習プリントを参考として復習に努めるようにすること。
使用教材	生理学 改訂第4版 彼末一之 編集（南江堂） / 配布資料 / パワーポイント
留意点 備 考	必要に応じてパワーポイントを使用する。

成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。
------	-------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	神経の基本的機能 1	神経組織【神経組織の構成要素・ニューロンの形態】 ニューロンの形態を図示して説明することができる。	
2	神経の基本的機能 2	活動電位【静止膜電位・イオンチャネル・活動電位】 静止膜電位と活動電位の発生について説明できる。	
3	神経の基本的機能 3	興奮伝導【伝導の原則・シナプス伝達】 伝導の原則とシナプス伝達について説明できる。	
4	神経の基本的機能 4	興奮伝導と伝達【神経線維の分類・化学伝達物質・伝達の特徴】 神経線維を分類し、伝達の特徴について説明できる	
5	神経系の構成と機能 1	神経系の構成【神経系の分類・脊髄の構造と機能】 神経系を構造・機能で分類することができる。	
6	神経系の構成と機能 2	脳神経【脳神経の名称・構成・機能】 脳神経の番号と名称を挙げるができる。	
7	神経系の構成と機能 3	自律神経系【自律神経とは・伝達物質・機能】 交感神経と副交感神経の働きを説明できる。	
8	神経系の構成と機能 4	自律神経系【自律神経反射】 自律神経反射について説明できる。	
9	神経系の構成と機能 5	自律神経系【自律神経反射】 自律神経反射について説明できる。	
10	神経系の構成と機能 6	運動機能【運動単位・脊髄の運動機能】 運動単位を説明し、伸張反射の反射弓を図示できる。	
11	神経系の構成と機能 7	運動機能【姿勢反射・大脳皮質の運動機能】 一次運動野の局在、錐体路について図示して説明することができる。	
12	神経系の構成と機能 8	運動機能の調節【運動協調・運動学習】 小脳と大脳基底核の機能を説明できる。	
13	神経系の構成と機能 9	高次脳機能【機能局在・言語機能・脳波】 機能局在と言語中枢について説明できる。	
14	神経系の構成と機能 10	高次脳機能【睡眠・学習と記憶】 レム睡眠で見られる現象を挙げるができる。	
15	前期内容まとめ	前期講義内容の補填	

科目名 【英】	手技療法 1 Manual Therapy Skill Training			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火・木	時 限	2

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道整復師として後療法での手技療法の知識と実技を身に付ける。
到達目標	前期で腰から下の筋肉を理解し、慰安目的の手技療法が出来る様になる。

準備学習 時間外学習	学んだ手技療法を自宅にて家族に施す。一人暮らしの場合は友人に施す。また、学んだ関連部位の解剖学を復習する。
使用教材	副教材として解剖学の教科書を持参して受講する事が望ましい
留意点 備 考	

成績評価	(授業内) : 実技試験100%
------	------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		オリエンテーリング	この授業で行われる授業の理念、内容及び評価の仕方を説明できる
2		勉強についての	技術と知識の重要性とやり方について説明できる
3		手技療法について	手技療法の授業の進め方、学び方、基礎を学び説明できる
4		手技療法基礎 軽擦	手技療法の基礎を学び、軽擦が出来る
5		ハムストリングへのアプローチ	ハムストリングに対して、手掌による圧迫法を用いて施術が出来る。また、ハムストリングの解剖学を学ぶ。
6		下腿へのアプローチ	脛脛に対して、拇指圧迫法、揉捏法、伸展法を用いて施術ができる。また、脛脛に対しての解剖学を学ぶ。
7		足裏へのアプローチ	足裏に対して、拇指圧迫法、揉捏法を用いて施術ができる。また、足全般に対しての解剖学を学ぶ。
8		今までの復習	人を入れ替えて、今まで学んできた手技を施し評価しあう。数人の体を触ることで、同じ部位でも人によってさまざまな違いがあることに気付く。
9		腸脛靱帯へのアプローチ	腸脛靱帯に対して、手掌強擦法を用いて施術ができる。また、腸脛靱帯等に対しての解剖学を学ぶ。
10		殿筋へのアプローチ	殿筋（大殿筋、中殿筋、梨状筋）に対して、拇指圧迫法、揉捏法を用いて施術ができる。。また、殿筋群に対しての解剖学を学ぶ。
11		腰へのアプローチ	腰部に対して、拇指圧迫法を用いて施術が出来る。また、腰部に対しての解剖学を学ぶ。
12		自分たちで評価	前期に学んできた手技療法を生徒同士で行いあい評価し合う。その時、金額も決めて自分たちの学んできたことに、実際社会で得られる評価を試みる。
13		前期復習及び実技試験準備	前期学んできたことの復習と、実技試験への準備を行う
14		実技試験	面談方式による実技試験
15		振り返り	前期の実技試験の反省点と向上点の洗い出し

科目名 【英】	柔整基礎講座 2 Course of Basic Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	1. 2

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復師に必要な解剖生理の基本的な知識を取得する。
到達目標	解剖学、生理学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第4版（南江堂）
留意点 備 考	毎回の授業範囲の問題を解けるように復習をする。

成績評価	期末試験100%（筆記）
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		消化器	消化器の解剖学的な名称を知る。全体像を理解し、基本構造を説明できるようになる。
2		消化器	舌の支配神経、胃、金運動について知り、説明できるようになる。
3		消化器	小腸の解剖学的な名称、働き、特徴を知り、説明できるようになる。
4		消化器、消化腺	結腸の特徴、消化液の分泌を知り、説明できるようになる。
5		消化と栄養素	栄養素の基本的なところを知り、消化の流れ、消化酵素について説明できるようになる。
6		消化器と内分泌	消化器に関するホルモンを知り、説明できるようになる。
7		肝・胆道系	肝臓・胆嚢の解剖学的な特徴を知り、説明できるようになる。
8		肝・胆道系	胆嚢・肝臓のはたらき、胆汁の作用について知り、説明できるようになる。
9		泌尿器	腎の構造について知り、説明できるようになる。
10		泌尿器	尿道の男女差、機能について知り説明できるようになる。
11		泌尿器	腎機能（再吸収・分泌について）知り、説明できるようになる。
12		泌尿器	尿細管の再吸収・分泌について知る。また再吸収・分泌に関わるホルモンを知り説明できるようになる。
13		泌尿器	排尿反射について知り、説明できるようになる。
14		総復習	消化器系・泌尿器系の演習問題を行い、知識の定着を図る。
15		総まとめ	全範囲の復習を行い、分からない箇所を確認し理解できる。

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 1 Clinical Judo Therapy Basic 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3.4

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	外傷に関する解剖およびメカニズムから骨折と脱臼について学ぶ。
到達目標	臨床現場でよく遭遇する脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として柔道整復学実技編no教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	肩関節脱臼 1	【解剖、概説、前方脱臼】 肩関節の構造を理解し、分類や症状について説明できる。	
2	肩関節脱臼 2	【前方脱臼の実技】 前方脱臼の整復法や固定法を知り、反復性脱臼に移行しやすい理由を説明できる。	
3	肩関節脱臼 3	【前方脱臼以外】 後方、下方、上方脱臼の特徴について説明ができる。	
4	肩関節部の軟損 1	【筋、腱の損傷】 腱板損傷について説明ができる。	
5	肩関節部の軟損 2	【筋、腱の損傷】 上腕二頭筋長頭腱損傷について説明ができる。	
6	肩関節部の軟損 3	【スポーツ損傷 1】 ベネット損傷、SLAP損傷について説明ができる。	
7	肩関節部の軟損 4	【スポーツ損傷 2】 肩峰下インピンジメント症候群、リトルリーガー肩について説明ができる。	
8	肩関節部の軟損 5	【不安定症】 ルーズショルダーについて説明ができる。	
9	肩関節部の軟損 6	【末梢神経障害】 肩甲上神経と腋窩神経の構造と絞扼障害について説明ができる。	
10	肩関節部の軟損 7	【その他の肩軟損】 五十肩について説明ができる。	
11	小テスト	肩関節脱臼、肩関節部軟損について理解を深める。	
12	肘関節脱臼 1	【解剖、概説、後方脱臼】 後方脱臼の発生機序について説明ができる。	
13	肘関節脱臼 2	【前方脱臼、側方脱臼、肘内障】 成人と小児の肘の構造の違いを理解し、肘内障について説明ができる。	
14	総復習	問題演習	
15	試験解説	試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 2 Clinical Judo therapy Basic 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3.4

担当教員	金釘直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術を行う。
------	------	-------	--------------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を頭部・顔面部・脊椎部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習が必要
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		頭部骨折①	頭部の骨、筋等の構造 頭部骨折の分類について説明できる。
2		頭部骨折②	頭蓋冠骨折、頭蓋底骨折の分類、合併症について説明できる。
3		顔面骨骨折①	鼻骨骨折・鼻軟骨骨折 上顎骨骨折について説明できる。
4		顔面骨骨折②	頬骨骨折、下顎骨骨折の症状や合併症について説明できる。
5		頸椎骨折①	上位頸椎骨折（環椎骨折）について説明ができる。
6		頸椎骨折②	上位頸椎骨折（軸椎骨折）について説明ができる。
7		頸椎骨折③	中・下位頸椎骨折について分類や病態の説明ができる。
8		胸椎骨折	胸椎骨折について説明ができる。
9		腰椎骨折	腰椎骨折について説明ができる。
10		頭部・顔面部の脱臼	顎関節脱臼についての説明ができる。
11		頸椎・胸椎・腰椎脱臼	頸椎脱臼。胸椎脱臼・腰椎脱臼につて説明ができる。
12		胸椎脱臼・腰椎脱臼	胸椎脱臼・腰椎脱臼について説明ができる。
13		頸部軟損①	頸部軟損損傷についての説明ができる。
14		復習	今までの復習
15		試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 3 Clinical Judo Therapy Basic 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3.4

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	柔道整復学各論の肩鎖関節脱臼、大腿骨骨折を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の復習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編第7版）・配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		腱の損傷 1	腱の構造と機能・腱の補助装置・腱損傷の概説
2		腱の損傷 2	腱損傷の程度による分類・腱損傷部位による分類・腱損傷の治癒機序
3		神経損傷 1	神経損傷の分類・外力の働き方による分類
4		神経損傷 2	末梢神経損傷の症状・末梢神経損傷の治癒機序
5		鎖骨の脱臼 1	鎖骨の脱臼の分類・胸鎖関節前方脱臼の症状
6		鎖骨の脱臼 2	肩鎖関節上方脱臼の整復法、治療法
7		大腿骨近位端部骨折 1	大腿骨骨頭部骨折の概説・大腿骨頸部骨折の概説、症状
8		大腿骨近位端部骨折 2	大腿骨頸部骨折の治療法、パウエル・ガーデンの分類・治癒困難な理由
9		大腿骨近位端部骨折 3	大腿骨頸部骨折の合併症・大腿骨転子部骨折・大転子単独骨折・小転子単独骨折
10		大腿骨骨幹部骨折 1	大腿骨骨幹部骨折の概説・発生機序
11		大腿骨骨幹部骨折 2	大腿骨骨幹部骨折の分類、症状、治療法、合併症
12		大腿骨遠位部骨折 1	大腿骨遠位端部骨折の分類、大腿骨顆上骨折、大腿骨遠位骨端腺離開
13		大腿骨遠位部骨折 2	大腿骨顆部骨折、内側側副靱帯付着部の裂離骨折
14		復習	今までの復習
15		試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 4 Clinical Judo Therapy Basic 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	1.2

担当教員	赤井 宝	実務者経験	2015年4月～2020年1月まで整形外科に所属し、機能回復訓練および 整復、固定を行う。
------	------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を胸郭、上肢帯を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場および柔道整復師の国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	胸郭、上肢帯の解剖の予習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。 3～4回程度、授業開始時に小テストを実施する。

成績評価	期末試験90%＋小テスト10%で評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		胸背部の解剖 肋骨・肋軟骨骨折	胸郭周辺の構造と機能について説明できる。 肋骨・肋軟骨骨折の概要について説明できる。
2		肋骨・肋軟骨骨折	肋骨・肋軟骨骨折の発生機序や治療法などについて説明できる。
3		胸骨骨折	胸骨骨折について説明できる。
4		上肢帯の解剖 鎖骨骨折	肩甲骨、鎖骨周辺の構造と機能について説明できる。 鎖骨骨折の概要について説明できる。
5		鎖骨骨折 1	鎖骨骨折の発生機序、分類、症状について説明できる。
6		鎖骨骨折 2	鎖骨骨折の固定や治療法、後遺症などについて説明できる。
7		鎖骨脱臼 1	鎖骨脱臼の概要や発生機序、分類、症状について説明できる。
8		鎖骨脱臼 2	鎖骨脱臼の固定や治療法、後遺症などについて説明できる。
9		肩甲骨骨折	肩甲骨骨折の分類や発生機序、治療法などについて説明できる。
10		腰背部の解剖	腰背部の構造と機能について説明できる。
11		胸背部の軟部組織 損傷 1	胸肋関節損傷、肋間筋損傷について説明できる。
12		胸背部の軟部組織 損傷 2	胸背部の打撲傷・軟部組織損傷について説明できる。
13		腰部の軟部組織損 傷	腰部の軟部組織損傷について説明できる
14		復習	今までの復習

15		試験解説	後期試験の解説
----	--	------	---------

科目名 【英】	物理療法学 Physical Therapy Equipment			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	1.2

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	物理療法の分類を理解し、作用と原理を学ぶ。
到達目標	物理療法機具の禁忌と使用方法を説明できるようにする。

準備学習 時間外学習	リハビリテーション医学の物理療法も参照。
使用教材	柔道整復理論 改訂第7版
留意点 備 考	

成績評価	100% 筆記試験
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		物理療法の分類	物理療法を分類し安全対策、禁忌を説明ができる。
2		主要な物理療法 1	低周波の効果、使用上の注意と禁忌が説明できる。
3		主要な物理療法 2	干渉波療法、温熱療法の効果と禁忌が説明できる。
4		主要な物理療法 3	ホットパック療法、パラフィン浴療法、局所浴の適応と禁忌が説明できる。
5		主要な物理療法 4	赤外線療法の効果、マイクロ波の使用上の注意・禁忌が説明できる。
6		主要な物理療法 5	超音波、光線療法（レーザー）の使用効果と禁忌が説明できる。
7		主要な物理療法 6	寒冷療法の効果、伝導冷却法、対流冷却法を説明できる
8		主要な物理療法 7	牽引療法の適応と効果、使用上の注意と禁忌が説明できる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

科目名 【英】	基礎包帯固定学 2 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4

担当教員	岩崎英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	------	-------	-------------------------------

学習内容	基本包帯を巻けるようになる。 三角巾、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。
到達目標	基本包帯を巻けるようになる。 樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。

準備学習 時間外学習	時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		三角巾	三角巾で提肘できるようになる。
2		肩の包帯 1	肩関節上行麦穂帯の巻き方を知る。
3		肩の包帯 2	肩関節上行麦穂帯が巻けるようになる。
4		樹脂副子 1	プライトン副子の基本的な使用方法を学ぶ。
5		肩の包帯 3	肩関節下行麦穂帯が巻けるようになる。
6		特殊包帯法 1	デゾー包帯第 1 帯、第 2 帯
7		特殊包帯法 2	デゾー包帯第 3 帯、第 4 帯
8		特殊包帯法 3	デゾー包帯第 3 帯、第 4 帯
9		副子作成 1	各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。
10		副子作成 2	各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。
11		枕子作成	各種骨折、脱臼の固定に必要な枕子を綿花、ガーゼで作成する。
12		肘の包帯 1	肘関節離開亀甲帯が巻けるようになる。
13		肘の包帯 2	肘関節集合亀甲帯が巻けるようになる。
14		総復習	三角巾、肘関節離開・集合亀甲帯、肩関節上行麦穂帯の復習練習を行う。
15		まとめ	試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。

科目名 【英】	臨床実習 1 Clinical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4

担当教員	山田 靖典 / 林 宏明	実務者経験	(山田) 2001年～2008年まで長鳴整形外科勤務 (林) 2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	--------------	-------	---

学習内容	主要関節の評価を行う (SFMA Selective Functional Movement Assessment)
到達目標	関節の機能不全について明確に原因を導き出す。そのために運動器 (筋肉) の知識が必要であると理解する。

準備学習 時間外学習	筋肉の理解が必要となるため起始停止作用は各自で理解する。
使用教材	プリント資料
留意点 備 考	毎回筋肉の小テスト実施

成績評価	授業評価 50%、筆記テスト 50%
------	--------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】				
1		臨床実習について	臨床実習の意義を理解する。また評価法に興味を持たす	90分
2		SFMAについて	SFMA (評価法) の目的・ルールを覚える。	90分
3		頸椎評価法	頸椎の評価を知る。	90分
4		頸椎評価法	頸椎の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
5		頸椎治療法	頸椎の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
6		肩評価法	肩関節の評価を知る	90分
7		肩評価法	肩関節の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
8		肩治療法	肩関節の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
9		多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作評価を知る	90分
10		多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
11		多分節屈曲治療法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
12		多分節伸展評価法	体幹の伸展動作評価を知る	90分
13		多分節伸展評価法	体幹の伸展動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
14		多分節伸展治療法	体幹の伸展動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
15		筋肉テスト	筋肉名を問いかけ起始停止を答える。作用は自分で動作を行う	90分
16		物理療法体験	電気療法、干渉波、SSP療法を体験し効果を理解する。	

17		物理療法体験	温熱療法、ホットパック、パラフィン浴療法を体験し理解する。
18		手技療法の実際	各手技基本の形をマスターする。
19		物理療法体験	牽引療法 腰部牽引、頸部牽引を体験し効果を理解する。
20		手技療法の実際	腰部・下肢の手技ができるようになる。
21		物理療法体験	変換熱、マイクロ波、超音波、レーザー治療を体験し理解する。
22		手技療法の実際	頸部・上肢の手技ができるようになる。
23		整骨院業務	カルテ、保険証、レセプトの説明。業務範囲について改めて理解する。

科目名 【英】	柔整解剖 B Anatomy of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	小田 垣 典行	実務者経験	2003年4月からおだぎ鍼灸整骨院にて従事。現在に至る。
------	---------	-------	------------------------------

学習内容	筋の名称、起始、停止、支配神経、作用と生体観測と生体計測を学ぶ。
到達目標	筋の名称、起始、停止、支配神経を覚え、体表からその位置を理解することによって、筋の作用（動き）を理解する。

準備学習 時間外学習	前時間の復習と前期に行った骨の各部の名称の復習を行う。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	授業毎に小テストを実施する。期末試験80%＋小テスト20%で評価する。
------	-------------------------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		筋 1	上肢帯の筋 上肢帯の筋の起始・停止・支配神経を知り、作用を説明できる。
2		筋 2	上腕の筋 前腕の屈筋 上腕の筋や前腕の屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
3		筋 3	前腕の屈筋・伸筋 前腕の屈筋・伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また手根管を通過するものを説明できる。
4		筋 4	前腕の伸筋 前腕の伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また伸筋支帯の6つのトンネルを理解し、通過するものを説明できる。
5		筋 5	手の筋 内寛骨筋 手の筋や内寛骨筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
6		筋 6	下肢帯の筋（外寛骨筋） 外寛骨筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また筋裂孔、血管裂孔、梨状筋上孔・下孔を理解し、通過するものを説明できる。
7		筋 7	大腿の屈筋・伸筋・内転筋 大腿の屈筋・伸筋・内転筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またハムストリングスを説明できる。
8		筋 8	大腿の内転筋 下腿の伸筋 大腿の内転筋や下腿の伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またスカルパ三角・鷲足を説明できる。
9		筋 9	下腿の屈筋・腓骨筋 顔面筋 下腿の伸筋・腓骨筋・屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
10		筋 10	足の筋 咀嚼筋 浅頸筋 舌骨上・下筋 深頸筋 咀嚼筋や浅頸筋や舌骨上・下筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
11		筋 11	深頸筋 胸部の筋 深頸筋、胸部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。吸気と呼気に分けることができる。
12		筋 12	胸部の筋 腹部の筋 胸部の筋、腹部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。吸気と呼気に分けることができる。また横隔膜の孔を通過するものを説明できる。
13		筋 13	浅・深背筋 頭蓋底 頸部の三角 浅・深背筋の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。頭蓋底の孔に通る血管・神経や頸部の三角を説明できる
14		筋 14・骨	体表解剖P280～296 体表から筋・血管を触知、確認できる。神経の圧痛点を確認できる。
15		テスト解説 まとめ	テスト解説 一年間のまとめ。

科目名 【英】	柔整生理B Physiology of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	3.4

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	正常な人体機能（主に運動器系に関する）を学び、柔道整復について考える。
到達目標	1. 筋収縮について説明できる。 2. 感覚のメカニズムを説明することができる。 3. 性周期、カルシウム調節に関わるホルモンと身体の変化について説明できる。

準備学習 時間外学習	授業終了時に次の授業範囲を伝えるので余裕があれば予習をしておくこと。 教科書または復習プリントを参考として復習に努めるようにすること。
使用教材	生理学 改訂第4版 彼末一之 編集（南江堂） / 配布資料 / パワーポイント
留意点 備 考	必要に応じてパワーポイントを使用する。

成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。
------	-------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋生理 1	筋収縮【筋組織と骨格筋収縮のしくみ】 筋組織について説明できる。	
2	筋生理 2	筋収縮【興奮収縮連関】 興奮収縮連関を説明できる。	
3	筋生理 3	筋収縮【長さ-張力の関係・筋収縮のエネルギー】 エネルギー供給系を説明できる。	
4	筋生理 4	筋収縮【平滑筋・心筋】 平滑筋と心筋の特徴を説明できる。	
5	感覚 1	総論【感覚の種類と一般的性質】 感覚を分類できる。	
6	感覚 2	特殊感覚【視覚】 眼球の構造を説明できる。	
7	感覚 3	特殊感覚【視覚・網膜・光受容・光量、遠近調節・伝導路】 視細胞の機能を説明できる。	
8	感覚 4	特殊感覚【嗅覚・味覚】 受容器を挙げるができる。	
9	感覚 5	特殊感覚【聴覚・前庭感覚】 音の伝達について説明できる。	
10	感覚 6	体性感覚【表在感覚・深部感覚・内臓感覚】 表在感覚と深部感覚の伝導路の違いを知る	
11	感覚 7	体性感覚【痛みのメカニズム】 痛みの分類を説明できる。	
12	生殖 1	生殖【性決定と性分化 男性生殖 女性生殖】 性決定、精子形成と卵巣・月経周期について説明できる。	
13	生殖 2	女性生殖【妊娠と分娩、乳汁分泌】 排卵から着床までの過程を説明できる。	
14	骨生理 1	骨組織【カルシウム代謝】 骨代謝に関わるホルモンを挙げるができる。	
15	後期内容まとめ	後期講義内容の補填	

科目名 【英】	手技療法 2 Manual Therapy Skill Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水・木	時 限	2

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道整復師として後療法での手技療法の知識と実技を身に付ける。
到達目標	後期で腰から上の筋肉を理解し、慰安目的の手技療法が出来るようになる。

準備学習 時間外学習	学んだ手技療法を自宅にて家族に施す。一人暮らしの場合は友人に施す。また、学んだ関連部位の解剖学を復習する。
使用教材	副教材として解剖学の教科書を持参して受講する事が望ましい
留意点 備 考	

成績評価	(授業内) : 実技試験100%
------	------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		前期手技療法の復習	前期学んだ手技療法を復習し、学んだことの反復性の重要性を学ぶ
2		背中へのアプローチ	背中（脊柱起立筋等）に対して、拇指圧迫法、肘を用いての施術ができる。また、脊柱起立筋等の解剖学を学ぶ
3		ローテーターカフ（肩甲骨）へのアプローチ	ローテーターカフ（肩甲骨）に対して、手掌による圧迫法を用いて施術が出来る。また、肩甲骨の解剖学を学ぶ。
4		ローテーターカフ（肩甲骨）へのアプローチ	ローテーターカフ（肩甲骨）に対して、拇指圧迫法、揉捏法を用いて施術が出来る。また、肩甲骨の解剖学を学ぶ。
5		三角筋へのアプローチ	三角筋に対して、拇指圧迫法、揉捏法を用いて施術が出来る。また、三角筋の解剖学を学ぶ。
6		上腕三頭筋へのアプローチ	上腕三頭筋に対して、手掌圧迫法、揉捏法、を用いて施術ができる。また、上腕三頭筋に対しての解剖学を学ぶ。
7		今までの復習	人を入れ替えて、今まで学んできた手技を施し評価しあう。数人の体を触ることで、同じ部位でも人によってさまざまな違いがあることに気付く。
8		僧帽筋へのアプローチ	僧帽筋に対して、拇指圧迫法を用いて施術ができる。また、僧帽筋等に対しての解剖学を学ぶ。
9		頸部へのアプローチ	頸部に対して、拇指圧迫法を用いて施術ができる。また、頸部等に対しての解剖学を学ぶ。
10		大腿四頭筋、前脛骨筋へのアプローチ	大腿四頭筋、前脛骨筋に対して、手掌圧迫法、拇指圧迫法を用いて施術ができる。また、殿筋群に対しての解剖学を学ぶ。
11		上半身全面へのアプローチ	上半身全面に対して、拇指圧迫法、伸展法を用いて施術が出来るようになる。また、腰部に対しての解剖学を学ぶ。
12		自分たちで評価	前期に学んできた手技療法を生徒同士で行いあい評価し合う。その時、金額も決めて自分たちの学んできたことに、実際社会で得られる評価を試みる。
13		前期復習及び実技試験準備	後期学んできたことの復習と、実技試験への準備を行う
14		実技試験	面談方式による実技試験
15		振り返り	後期の実技試験の反省点と向上点の洗い出し

科目名 【英】	解剖生理学 1 Anatomy and Physiology 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	3.4

担当教員	永瀬 佳孝	実務者経験	1989年4月～1991年3月小曽根病院歯科、1991年4月～1993年6月中川歯科医院にて歯科医師としての実務経験あり。
------	-------	-------	---

学習内容	神経の解剖学・生理学について学習する。
到達目標	①授業内容の各項目の知識を記憶し、図と文章を用いて説明することができる。 ②授業の各項目について、臨床との関連を説明することができる。 ③国家試験の問題を解く考える力を身につける。

準備学習 時間外学習	授業の最後に次回の講義範囲を提示するので、1年次の教科書を読んでくること。 授業の最後に記憶すべき事項を提示するので、覚えること。
使用教材	1・2年生で使用する解剖学、生理学、一般臨床の教科書
留意点 備 考	すべて板書するので、それをノートに手書きで書き写し、授業終了時に授業ノートの提出により出席とする。

成績評価	筆記試験（60）%、授業ノート提出（40）%（欠席1回につき10%減点）、合計100点。60点以上で合格。
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	神経 1	ニューロンの電気現象、反射 反射と反射弓と神経学的検査との関連、運動調節の基礎を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。	
2	神経 2	反射の調節－脊髄、脳幹 反射の調節と運動器疾患の関連、臨床への応用を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。	
3	神経 3	小脳の構造と運動調節 小脳の構造が運動調節にどう関連するか、疾患との関連はどうかを覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。	
4	神経 4	大脳基底核の構造と運動調節 大脳基底核の構造が運動調節にどう関連するか、疾患との関連はどうかを覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。	
5	神経 5	大脳皮質の構造と運動調節 小脳との構造の違いが機能にどう変化するかを覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。	
6	神経 6	感覚の一般と体性感覚 意識にのぼらない体性感覚が、実は重要であることを覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。	
7	神経 7	視覚 網膜がどのように情報を分けるか、それがどのように処理さえるかを覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。	
8	神経 8	眼球運動 外眼筋とその運動の調節の仕組み、臨床との関連を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。	
9	神経 9	平衡感覚 前庭感覚、視覚、体性感覚による姿勢調節を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。	
10	神経 10	聴覚 耳の構造、伝導路から、聴覚の特徴を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。	
11	神経 11	味覚と嗅覚 情動や記憶との関連を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。	
12	神経 12	痛覚 他の感覚との違いを覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。	
13	神経 13	学習と記憶 運動に関連することを覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。	

14		神経 1 4	睡眠 感覚との関連を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
15		神経 1 5	自律神経系 内分泌系とともに内臓調節とともに運動調節にも関連することを覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。

科目名 【英】	運動学 Kinesiology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	3.4

担当教員	林 真太郎	実務者経験	2010年～2019年 理学療法士として病院勤務を経て訪問リハも 従事 2019年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事
------	-------	-------	---

学習内容	運動に関する人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。 特に重力の影響を受けた状態での運動について、その原理・理論も含めて学習する。
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靱帯、筋について説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント
留意点 備 考	
成績評価	期末試験 100%

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		運動学 1	運動学の目的／運動の表し方／身体運動と力学 ヒトの運動を構成する原理、法則、概念について解し、それを説明できる。
2		運動学 2	運動感覚と反射／四肢と体幹の運動 1【上肢帯・肩関節 1】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
3		運動学 3	運動感覚と反射／四肢と体幹の運動 1【上肢帯・肩関節 2】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
4		運動学 4	四肢と体幹の運動 2【肘関節・前腕 1】 肘関節の構造・機能について理解できる。
5		運動学 5	四肢と体幹の運動 2【肘関節・前腕 2】 肘関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
6		運動学 6	四肢と体幹の運動 3【手関節・手 1】 手関節・手の構造・機能について理解できる。
7		運動学 7	四肢と体幹の運動 3【手関節・手 2】 手関節・手の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
8		運動学 8	四肢と体幹の運動 4【股関節 1】 股関節の構造・機能について理解できる。
9		運動学 9	四肢と体幹の運動 4【股関節 2】 股関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
10		運動学 10	四肢と体幹の運動 5【膝関節 1】 膝関節の構造・機能について理解できる。
11		運動学 11	四肢と体幹の運動 5【膝関節 2】 膝関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
12		運動学 12	四肢と体幹の運動 6【足関節・足部 1】 足関節・足部の構造・機能について理解できる。
13		運動学 13	四肢と体幹の運動 6【足関節・足部 2】 足関節・足部の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
14		運動学 14	四肢と体幹の運動 7【四肢の運動のまとめ 1】 各関節構造の理解に基づき、上・下肢の運動を各関節の運動に分解して理解できる。
15		運動学 15	四肢と体幹の運動 7【四肢の運動のまとめ 2】 各関節構造の理解に基づき、上・下肢の運動を各関節の運動に分解して説明できる。

科目名 【英】	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	3.4

担当教員	山本 貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。 2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。
------	-------	-------	--

学習内容	リハビリテーション医学の基礎的な内容を理解する。生活機能を評価し、改善するための着眼を養う。
到達目標	リハビリテーションの理念を理解し説明することが出来る。医学的リハビリテーションにおける多職種協働によるアプローチを実践するための、専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備 考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		リハビリテーションの概念・歴史	リハビリテーションの概念・歴史 リハビリテーションの理念を説明することができるようになる
2		障害の捉え方・ICIDH	国際障害分類 ICIDHでの障害分類を説明できる。簡単な障害をICIDHの障害構造に分類できるようになる
3		障害と生活機能 ICF	国際生活機能分類 ICFに基づく生活機能の説明ができる。背景因子への介入方法について説明できるようになる
4		リハビリテーションでの多職種連携	リハビリテーションに関わる職種・多職種連携 リハビリテーションに関わる職種を説明することができるようになる
5		評価学 1	リハビリテーションにおける評価 リハビリテーションで用いる評価法を理解できるようになる
6		障害学と治療学 1	関節機能障害とその治療 可動域制限の原因の鑑別診断とその治療手技について理解できるようになる
7		障害学と治療学 2	筋力低下・神経障害とその治療 筋力・神経機能の評価から治療までの過程を理解できるようになる
8		障害学と治療学 3	各種治療技術の紹介（身体作業療法・精神科作業療法） 作業療法について説明できるようになる
9		障害学と治療学 4	各種治療技術の紹介（言語障害・高次脳機能障害とその治療） 言語障害、高次脳機能障害について理解し説明できるようになる
10		高齢者 1	廃用症候群 廃用症候群の各症候を理解し、その対処法を説明できるようになる
11		高齢者 2	医療制度・介護保険制度 高齢者に関連する社会制度で実践されるリハビリテーションについて理解できるようになる
12		脳血管障害 1	脳血管障害 脳血管障害の急性期のリハビリテーションを理解できるようになる
13		脳血管障害 2	脳血管障害 脳血管障害の回復期・維持期のリハビリテーションを理解できるようになる
14		パーキンソン病	パーキンソン病・神経疾患 パーキンソン病等のリハビリテーションについて理解できるようになる
15		試験解説・まとめ	前期試験を解説 前期で学習した範囲が説明できるようになる

科目名 【英】	整形外科 Orthopaedics			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	3. 4

担当教員	高橋 秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	-------	-------	---

学習内容	柔道整復師の業務に必要な整形外科疾患の知識を得る。 柔道整復業務に必要な情報のやり取りを整形外科医と行う為の基礎知識を学ぶ
到達目標	国家試験整形外科分野の正答率80%を目指す 患者の状態から正しい病態把握ができるようになる 外傷だけでなく整形外科疾患全般の知識を身に着ける

準備学習 時間外学習	解剖学の骨、筋の知識の復習
使用教材	柔道整復学校協会 整形外科学
留意点 備 考	教科書を熟読すること。 板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事

成績評価	定期試験 筆記 100%
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	整形外科 1	オリエンテーション 整形外科とは 運動器の基礎知識 骨の基礎知識を説明できるようになる	
2	整形外科 2	運動器の基礎知識 筋・靱帯・腱の知識を修得し、構造と役割を説明できるようになる	
3	整形外科 3	運動器の科学、生体材料、再生医学を理解し患者説明の手段とすることが出来るようになる 整形外科的診察法の導入	
4	整形外科 4	整形外科的診察法 上肢長下肢長計測と姿勢・体幹四肢のバランス、跛行の観察ができるようになる	
5	整形外科 5	整形外科的診察法 反射 拘縮 強直 跛行 トレンデレンブルグ徴候の概念が説明できるようになる	
6	整形外科 6	整形外科的診察法 X-P CT MRI PETの適応と禁忌症について説明できるようになる	
7	整形外科 7	整形外科的診察法 骨密度測定～超音波検査を運用する知識を修得し運用の基礎知識とすることが出来るようになる	
8	整形外科 8	整形外科的治療法 観血療法、薬物療法～関節形成術について患者説明ができるようになる	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

科目名 【英】	外科学概論 Introduction of Surgery			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	1.2

担当教員	坂口 道倫	実務者経験	外科学の臨床および教育を30年間おこなっている
------	-------	-------	-------------------------

学習内容	医療の基本を学ぶ。外科学として基本の外傷学を学ぶ。外科学各論として、各臓器の外科疾患における病態と治療法について学ぶ。
到達目標	医療における生理学と解剖学に基づいた外科臨床の考え方を身につける。さらに、基礎的な医療用語を筆記にて説明できるようにする。

準備学習 時間外学習	毎回の授業を復習し、理解し暗記する。指定された個別医療単語を簡単に説明できるようにする。
使用教材	教科書「外科学概論」（南江堂）
留意点 備 考	整理された知的で美しいノートを創り上げる。授業における集中力を高める。

成績評価	前期に3回の確認テストを行う。期末試験（85%）＋確認テスト（計15%）で総合評価する。
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		頭部外傷	頭部の解剖と外傷について病態を理解する
2		胸部外傷	胸部の解剖と外傷について病態を理解する
3		腹部外傷	腹部の解剖と外傷について病態を理解する
4		確認テスト	外傷について筆記できるようにする
5		総論 1	損傷と創傷、熱傷と外科感染症について理解し説明できるようにする
6		総論 2	腫瘍とショック、輸血・輸液、消毒と滅菌について理解する
7		確認テスト	総論 1・2について筆記できるようにする
8		総論 3	手術と麻酔、移植と免疫、出血と止血、心肺蘇生法について理解する
9		各論 1	脳神経外科疾患について理解し説明できるようにする
10		確認テスト	総論 3・各論 1について筆記できるようにする
11		各論 2	甲状腺・頸部疾患、胸壁・呼吸器疾患について理解する
12		各論 3	心臓・脈管疾患、乳腺疾患について理解し説明できるようにする
13		各論 4	腹部外科各論を説明できる。急性腹症を表示できる。
14		総まとめ	各論について系統的・総合的に確認する。個別医療関連単語について、知識を検証し確認する。
15		試験解説と弱点補強	理解していない項目を学習する。各論のうち特に外傷外科について説明できるようになる。

科目名 【英】	臨床柔整学応用各論 1 Judo Therapy Practical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	正木 大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	--

学習内容	上腕骨骨折、前腕骨遠位端部骨折の各論、定型的転位、応用固定学、臨床を学ぶ。
到達目標	上腕骨骨折、前腕骨遠位端部骨折の国家試験問題が解けるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）参照
使用教材	柔道整復理論 改訂第7版
留意点 備 考	

成績評価	100% 定期試験評価
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔道整復師の臨床と介護予防	柔道整復師の臨床、医接連携、介護予防通所介護の機能訓練士の業務が理解できるようになる。
2		上腕骨近位端部骨折	上腕骨骨頭部骨折の発生機序、症状、固定法、後療法、予後、肩関節の構造と機能などが説明できる。
3		上腕骨近位端部骨折	上腕骨解剖頸骨折の発生機序、症状、固定法、後療法、予後などが説明できる。
4		上腕骨近位端部骨折	上腕骨外科頸骨折の発生機序、症状、鑑別診断などが説明できる。
5		上腕骨近位端部骨折	上腕骨外科頸骨折の固定法、骨癒合、後療法、予後などが説明できる。
6		上腕骨近位端部骨折	上腕骨大結節、小結節単独骨折、近位骨端線離開の発生機序、整復、固定法、合併症が理解できるようになる。
7		上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折の概説、発生機序、症状、合併症、骨片転位理解ができるようになる。
8		上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折の整復法、固定法、後遺症、骨癒合、予後が理解できるようになる。
9		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の特徴、発生機序、分類、骨折線、骨片転位が理解できるようになる。
10		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の症状、受診時の注意事項、X線による評価が理解できるようになる。
11		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の整復、固定、後療法、Fat pad sign、肘関節後方脱臼との鑑別が理解できるようになる。
12		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の後遺症、フォルクマン拘縮、骨化性筋炎が理解できるようになる。
13		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨外顆骨折の特徴、発生機序、骨折線と骨片転位、症状、整復法、固定法、後遺症が理解できるようになる。
14		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨内側上顆骨折の特徴、発生機序、骨片転位、症状、整復法、固定法、後遺症が理解できるようになる。
15		試験解答	前期筆記試験解答と解説

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 2 Clinical Judo Therapy Advanced 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3.4

担当教員	上田 益嗣	実務者経験	1995年7月～2024年3月 接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復術に必要な下肢の外傷や障害を学ぶ。また、臨床推論を構築するための統合的知識を学ぶ。柔道整復師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。
到達目標	柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科学との関連を復習する。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学・運動学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	原則、単元毎に小テストを実施。期末試験100%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	オリエンテーション 股関節脱臼 1	評価基準・講義に関する略号・股関節部の【解剖・下肢のアライメント・バイオメカニクス】 股関節脱臼【後方脱臼の発生機転・症状】に関して説明ができる	
2	股関節脱臼 2	小テスト。前回の復習。股関節脱臼【後方脱臼の整復障害・整復法・前方脱臼・中心性脱臼】 股関節脱臼について説明ができる	
3	膝関節脱臼 1	小テスト。前回の復習。膝関節脱臼【膝関節部の解剖・発生機序・分類・症状・合併症・治療】。膝関節脱臼の分類の説明ができる	
4	足部の脱臼 1	小テスト。前回の復習。足部の脱臼【足部の解剖・距腿関節脱臼・横足根関節損傷・足根中足関節】距腿関節脱臼・横足根関節損傷・足根中足関節について説明ができる	
5	足部の脱臼 2	小テスト・前回の復習・足部の脱臼【中足趾節関節、趾節間関節の脱臼・発生機序・分類など】中足趾節関節脱臼・趾節間関節脱臼を説明することができる。	
6	下腿骨近位端部骨折 1	小テスト。前回の復習。下腿骨近位端部【下腿骨近位端部の解剖・アライメント・分類】 下腿骨近位端部の構造・骨折分類の説明ができる	
7	下腿骨近位端部骨折 2	小テスト。前回の復習。下腿近位端骨折【顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL付着部裂離骨折・脛骨粗面骨折】顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL付着部裂離骨折・脛骨粗面骨折について説明ができる	
8	下腿骨近位端部骨折 3	小テスト。前回の復習。下腿近位端骨折【腓骨頭単独骨折・Segond骨折】・下腿骨幹部骨折。 腓骨頭単独骨折・Segond骨折・下腿骨骨幹部骨折の発生機序について説明ができる	
9	下腿骨骨幹部骨折 1	小テスト。前回の復習。脛骨骨幹部【脛骨単独&脛腓両骨骨折の転位・症状・治療法・後遺症】脛骨単独&脛腓両骨骨折について説明ができる	
10	下腿骨骨幹部骨折 2	小テスト。前回の復習。腓骨骨幹部骨折&下腿骨顆上骨折【分類・発生機序・転位・症状・治療法など】。腓骨骨幹部骨折&下腿骨顆上骨折について説明できる。	
11	下腿骨骨幹部骨折 3	小テスト。前回の復習。下腿骨疲労骨折【分類・発生機序・転位・症状・治療法など】。 下腿骨疲労骨折について説明できる。	
12	下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折 1	小テスト。前回の復習。足関節部の解剖、バイオメカニクス・下腿骨果部【冠名骨折、部位別分類など】。足関節部の解剖や下腿果部骨折の分類を説明することが出来る。	
13	下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折 2	小テスト。前回の復習。下腿骨遠位端部骨折【ラウゲ＝ハンセン分類の転位・症状など】。 下腿遠位端部および足関節の脱臼骨折のラウゲ＝ハンセン分類による説明ができる。	
14	下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折 3	小テスト。前回の復習。下腿骨遠位端部骨折【受傷外力による分類の症状・治療法など】。 下腿遠位端部および足関節の脱臼骨折の受傷外力による分類での説明ができる。	
15	試験解説	前期試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 3 Clinical Judo Therapy Advanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3.4
担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう				
学習内容	上肢の骨折および軟部組織損傷を学び、柔道整復師の役割について考える。						
到達目標	1. 疾患概念を説明できる。 2. 各損傷におけるポイントを説明できる。 3. 前腕部・手関節部の解剖と機能について説明できる。						
準備学習 時間外学習	解剖に対して不安であれば予習をしておくこと。						
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第7版（南江堂） / 配布資料						
留意点 備 考							
成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		前腕近位部骨折①	橈骨近位端部骨折 本骨折の骨片転位を説明できる。
2		前腕近位部骨折②	肘頭骨折 本骨折の骨片転位を説明できる。
3		前腕骨骨幹部骨折①	橈骨・尺骨骨幹部単独骨折 各骨折の骨片転位を説明できる。
4		前腕骨骨幹部骨折②	前腕骨骨幹部両骨骨折 本骨折の骨片転位、難治理由を説明できる。
5		前腕部脱臼骨折①	ガレアジ骨折 ガレアジ骨折の注意点を説明できる。
6		前腕部脱臼骨折②	モンテギア骨折 モンテギア骨折の注意点を説明できる。
7		上腕部軟部組織損傷	橈骨・尺骨神経損傷 各神経損傷について説明できる。
8		肘部軟部組織損傷	野球肘、テニス肘 各障害について説明できる。
9		前腕部軟部組織損傷	前腕コンパートメント症候群 本症候群の病態を説明できる。
10		末梢神経障害①	正中神経障害【解剖・分類・概要】 正中神経障害を分類することができる。
11		末梢神経障害②	橈骨神経障害【解剖・分類・概要】 橈骨神経障害を分類することができる。
12		末梢神経障害③	尺骨神経障害【解剖・分類・概要】 尺骨神経障害を分類することができる。
13		手関節軟部組織損傷①	TFCC損傷【手関節部の機能解剖・症状・徒手検査・治療】 TFCC損傷の概念と症状を説明できる。
14		手関節軟部組織損傷②	狭窄性腱鞘炎、他疾患【ド・ケルバン病、マーデルング変形、キーンベック病】 それぞれの病態を説明できる。
15		前期内容まとめ	前期授業内容を説明できる。

科目名 【英】	柔整コンディショニング実習 1 Judo Therapy Conditioning Skill Practice			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	1.2

担当教員	岩本 暁美 / 本田 珠美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し施術をおこなう。
------	---------------	-------	---------------------------------

学習内容	柔道整復師において必要となる基礎包帯（下肢包帯、冠名包帯、肋骨骨折の固定法など）を学ぶ。
到達目標	実技試験までにすべての包帯法の走行を覚え、手早く綺麗に巻けるようになる。

準備学習 時間外学習	動画視聴を行い、走行の復習をしておく。
使用教材	4.5.6裂包帯、3.8ホワイトテープ、三角巾、さらし、厚紙副子（学校で準備）、配布プリント
留意点 備 考	包帯用ファイルを持参し、プリントを挟んでいく。

成績評価	実技試験90%、筆記試験10%
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	足部の包帯 1	【足関節 上行麦穂帯】 上行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。	
2	足部の包帯 2	【足関節 下行麦穂帯】 下行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。	
3	足部の包帯 3	【鍔帯】 鍔帯の走行を覚え、巻くことができる。	
4	足部の包帯 4	【踵離開亀甲帯 + 三節帯】 離開亀甲帯の圧のかけ方を知る。	
5	下腿の包帯	【下腿の包帯】 下腿包帯の走行を覚え、巻くことができる。	
6	膝部の包帯	【膝関節離開亀甲帯】【膝関節集合亀甲帯】 膝関節亀甲帯の走行を覚え、巻くことができる。	
7	復習	今までの包帯法を振り返り巻くことができる。	
8	冠名包帯 1	【ヴェルポー包帯】 ヴェルポー包帯の走行を覚え、巻くことができる。	
9	冠名包帯 2	【ジュール包帯】 ジュール包帯の走行を覚え、巻くことができる。	
10	冠名包帯 3	【デゾー包帯（簡易ver.）】 デゾー包帯（簡易ver.）の走行を覚え、巻くことができる。	
11	鎖骨骨折の固定	【セイヤー絆創膏固定】 セイヤー絆創膏固定法の走行を覚え、固定の役割を知る。	
12	肋骨骨折固定 1	【さらし厚紙副子固定法】 肋骨骨折の固定法を知り、走行を覚える。	
13	筆記試験	【筆記試験】 3年次に向け包帯固定の必修内容を覚える。	
14	総復習	【実技試験に向けての総復習】 実技試験に合格できるように試験を想定した練習をする。	
15	肋骨骨折固定 2	【屋根瓦状固定】 肋骨骨折の固定法を知り、走行を覚える。	

科目名 【英】	柔道整復実技 1 Judo Therapy Practical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	1.2

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	医療面接・徒手検査法・反射検査・感覚検査・運動機能検査を学ぶ
到達目標	臨床実習前教育で身につけておく基本的臨床能力を身につける

準備学習 時間外学習	一般臨床医学の検査法・リハビリテーション医学MMT、ROMを参照
使用教材	実技マニュアル・一般臨床医学
留意点 備 考	実技なのでK Cで白Tシャツ・短パン

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		身体触診法	四肢長・四肢周径・MMT・ROM行うことができる。
2		体表解剖	身体各部のランドマーク・大結節・結節間溝・足背動脈・感覚検査を行うことができる。
3		徒手検査 1	ジャクソンテスト・スパーリングテスト・上肢深部健反射・上肢病的反射を行うことができる。
4		徒手検査 2	SLRテスト、FNSテスト、ケンプ徴候、下肢深部健反射、下肢病的反射を行うことができる。
5		徒手検査 3	運動機能検査、（バレー徴候、指鼻試験、ロンベルグ試験）を行うことができる。
6		徒手検査 4	腱板損傷検査法（ペインフルアーク、インピンジメント、ドロップアームテスト）を行うことができる。
7		徒手検査 5	上腕二頭筋検査法（ヤーガソン・スピードテスト・エルボーフレクションテスト）を行うことができる。
8		徒手検査 6	大腿四頭筋検査法（背臥位、座位、腹臥位）を行うことができる。
9		徒手検査 7	ハムストリングス（背臥位、腹臥位）を行うことができる。
10		徒手検査 8	膝関節検査法 1（側方動揺性、アプレー牽引）を行うことができる
11		徒手検査 9	膝関節検査法 2（前方引き出し、ラックマン、Nーテスト）を行うことができる。
12		徒手検査 10	膝関節検査法 3（マックマレーテスト、アプレー圧迫、ワトソングジョーンズ）を行うことができる。
13		徒手検査 11	下腿三頭筋（誘発テスト、トンブソンテスト）を行うことができる。
14		徒手検査 12	足関節（前方引き出し、内反ストレステスト）を行うことができる。
15		徒手検査 13	前期振り返り・総復習

科目名 【英】	柔道整復実技 2 Judo Therapy Practical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	1.2

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復理論を理解した上で脱臼整復を学習する。
到達目標	実習を通じて整復法をできるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復理論を復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。
使用教材	実技マニュアル、配布プリント
留意点 備 考	副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	実技の期末試験100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		肩関節前方脱臼	コッヘル法で整復できるようになる。
2		肩関節前方脱臼	ヒポクラテス法の違いを知り整復できるようになる。
3		肩関節前方脱臼	コッヘル法、ヒポクラテス法の違いを知り整復できるようになる。
4		肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。
5		肘内障	肘内障を整復できるようになる。
6		肘関節後方脱臼 肘内障	肘関節後方脱臼と肘内障を整復できるようになる。
7		顎関節前方脱臼	口外法で整復できるようになる。
8		顎関節前方脱臼	口外法と口内法の違いを知り整復できるようになる。
9		肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼が整復できるようになる。
10		肩関節前方脱臼	コッヘル法・ヒポクラテス法それぞれで整復できるようになる。
11		肘関節後方脱臼 肘内障	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。
12		顎関節前方脱臼	口内法・口外法で整復できるようになる。
13		肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼の整復ができるようになる。
14		総復習	全ての整復法、固定法ができるようになる。
15		試験の振り返り	全ての項目の振り返りを行い、整復法、固定法をできるようになる。

科目名 【英】	臨床実習 2 Clinical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3・4

担当教員	堀口 晃一 / 姫 将司	実務者経験	(堀口) 整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月 (姫) 2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務
------	--------------	-------	--

学習内容	医療者が臨床に必要なマナーや倫理、診察法、症例レポートの作成方法を学ぶ。 医療面接や接遇の実技を行う。
到達目標	医療人としての身嗜みを整えや接遇としての患者対応をすることができる。 一般的な内科疾患、整形外科疾患を視診から判断することができる。 外来患者の症例記録から症例レポートを作成することができる。

準備学習 時間外学習	1年次の臨床実習の復習が望ましい
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや一版臨床医学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	出席率 及び 臨床実習評価表にて評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		ガイダンス	臨床実習の意義、目的、評価を学ぶ。 適切な身だしなみを実践できる。
2		医療倫理	インフォームド・コンセント、守秘義務、医療過誤、衛生観念（スタンダード・プリコーション）を学ぶ。 インフォームドコンセントなど学んだことを説明できる。
3		診察法 1	医療面接、視診、聴診、打診、触診の意義を学ぶ。 医療面接で重要なこと、視診・聴診・触診での注意事項を答えることができる。
4		診察法 2	医療面接の意義、目的、方法を学ぶ。 情報収集、良好な医療従事者-患者関係を説明できる。
5		診察法 3	医療面接に関する基本的な考え方と技能を学ぶ。 適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀を実践し、病歴情報を収集することができる。
6		診察法 4	視診・聴診・打診・触診の方法を学ぶ。 診察上の内科病変、整形外科的病変を答えることができる。
7		診察法 5	接骨院で使用する一般的な物理療法器機の扱い方を学ぶ。 一般的な物理療法器機の禁忌症や注意事項を答えることができる。
8		診察法 6	一般的なビジネスマナーを学ぶ。 服装と身だしなみのマナー、お辞儀、 会話、言葉遣いのマナーや笑顔とあいさつを行うことができる。
9		診察法 7	医療人としてのマナーを学ぶ。 医療人としての心構え、職場のマナー、患者対応の注意事項を答えることができる。
10		外部臨床実習 ガイダンス	外部臨床実習の意義、目的、評価方法を学ぶ。 外部臨床実習の到達目標を説明できる。
11		ロールプレイング 1	症例記録を作成する際の注意事項を学ぶ。 ロールプレイングから症例記録を作成することができる。
12		ロールプレイング 2	症例レポートを作成する際の注意事項を学ぶ。 症例記録から症例レポートを作成することができる。
13		ロールプレイング 3	一般的な整骨院業務を学ぶ。 挨拶・事前準備（ベッドメイク、掃除など）・事後片付け（掃除、翌施術日の準備など）・介助法（寝かせ方、座らせ方、起こし方、立たせ方など）を実施することができる。
14		振り返り 1	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 医療従事者としての自覚や感想、反省を述べることができる。
15		振り返り 2	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 症例レポートの発表を行うことができる。

16		検査法 1	上肢の検査法を実施することができる。
17		検査法 2	上肢・下肢の検査法を実施することができる。
18		検査法 3	下肢の検査法を実施することができる。
19		ROM検査法	上肢・体幹のROMが計測できるようになる。
20		ROM検査法	下肢のROMが計測できるようになる。
21		MM T 1	MM T について理解することができる。
22		MM T 2	MM T について理解することができる。
23		MM T 3	MM T について理解することができる。

科目名 【英】	柔道整復応用講座 3 Course of Judo Therapy Advanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	1.2

担当教員	高橋秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	------	-------	---

学習内容	内科的疾患について学ぶ
到達目標	臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。 また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。
使用教材	教科書「一般臨床医学」
留意点 備 考	副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。

成績評価	最終日に行う試験による評価を100%とする。
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		診察概論	診察の意義について理解、説明できるようになる
2		医療面接	医療面接について理解、説明できるようになる
3		視診	体格・体型 体位・姿勢について理解、説明できるようになる
4		視診	栄養状態 精神状態について理解、説明できるようになる
5		視診	異常運動 麻痺 麻痺の分類について理解、説明できるようになる
6		視診	運動失調～随意性歩行について理解、説明できるようになる
7		視診	皮膚の状態 色調の変化～毛髪、体毛の異常について理解、説明できるようになる
8		視診	頭部顔面の視診 大きさ、形～口腔、舌、咽頭の異常について理解、説明できるようになる
9		視診	頸部の視診～腹部の視診による異常所見について理解、説明できるようになる
10		視診	背部、腰部の視診～四肢の視診、（下垂手まで）について理解、説明できるようになる
11		視診	手の変形～下肢の変形について理解、説明できるようになる
12		打診	打診 打診の意義と方法～腹部の打診について理解、説明できるようになる
13		聴診	聴診の意義と方法～腹部の聴診について理解、説明できるようになる
14		聴診	触診の意義と方法～皮膚腫瘍、皮下腫瘍について理解、説明できるようになる
15		触診	筋肉の触診～リンパ節の触診について理解、説明できるようになる

科目名 【英】	解剖生理学 2 Anatomy and Physiology 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	3.4

担当教員	永瀬 佳孝	実務者経験	1989年4月～1991年3月小曽根病院歯科、1991年4月～1993年6月中川歯科医院にて歯科医師としての実務経験あり。
------	-------	-------	---

学習内容	内臓の解剖学・生理学について学習する。
到達目標	①授業内容の各項目の知識を記憶し、図と文章を用いて説明することができる。 ②授業の各項目について、臨床との関連を説明することができる。 ③国家試験の問題を解く考える力を身につける。

準備学習 時間外学習	授業の最後に次回の講義範囲を提示するので、1年次の教科書を読んでくること。 授業の最後に記憶すべき事項を提示するので、覚えること。
使用教材	1・2年生で使用する解剖学、生理学、一般臨床の教科書
留意点 備 考	すべて板書するので、それをノートに手書きで書き写し、授業終了時に授業ノートの提出により出席とする。

成績評価	筆記試験（60）％、授業ノート提出（40）％（欠席1回に付き10％減点）、合計100点。60点以上で合格。
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		内臓の解剖と自律機能 1	体液、血球の分化と疾患、免疫、アレルギー 免疫を中心とした各種細胞の機能と疾患との関連を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
2		内臓の解剖と自律機能 2	循環器系の概略と疾患、心臓の解剖と生理 心臓の構造・機能と疾患との関連を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
3		内臓の解剖と自律機能 3	血管系と血圧、循環の調節 血管系の構造が循環機能に関連することを覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
4		内臓の解剖と自律機能 4	呼吸器系の解剖と疾患、呼吸の生理 呼吸器系と消化器系・循環器系が関連することを覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
5		内臓の解剖と自律機能 5	呼吸の調節 呼吸調節が運動や他の内臓機能と関連することを覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
6		内臓の解剖と自律機能 6	消化器系の解剖と機能 消化器系の構造の変化が機能の変化につながることを覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
7		内臓の解剖と自律機能 7	消化・吸収と肝臓 消化と血管系の関連を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
8		内臓の解剖と自律機能 8	腎泌尿器系の解剖と疾患、ナトリウムイオンと水の吸収 尿路の構造と機能との関連を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
9		内臓の解剖と自律機能 9	電解質の調節、排尿と蓄尿 電解質の調節、繁用の調節と疾患との関連を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
10		内臓の解剖と自律機能 10	代謝と体液の pH、体温の調節の仕組み 中間代謝、エネルギー代謝を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
11		内臓の解剖と自律機能 11	分泌調節によるホルモンの分類、下垂体のホルモン 分泌調節でホルモンを分類すると、共通することがあることを覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
12		内臓の解剖と自律機能 12	下垂体ホルモンの続き 各内分泌器官のホルモン名、作用、分泌調節を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
13		内臓の解剖と自律機能 13	カルシウム代謝と骨の解剖生理 各内分泌器官のホルモン名、作用、分泌調節を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。

14		内臓の解剖と自律 機能 1 4	糖質代謝、電解質代謝 各内分泌器官のホルモン名、作用、分泌調節を覚える。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
15		内臓の解剖と自律 機能 1 5	筋と解剖生理の関係 内臓機能との関連を説明することができる。 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
16			

科目名 【英】	一般臨床医学 General Remarks of Clinical Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	1.2

担当教員	高橋秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	------	-------	---

学習内容	内科的疾患について学ぶ
到達目標	臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。 また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。
使用教材	教科書「一般臨床医学」
留意点 備 考	副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。

成績評価	最終日に行う試験による評価を100%とする。
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		生命徴候	生命徴候 体温 血圧について理解、説明できるようになる
2		生命徴候	生命徴候 脈拍 呼吸 感覚検査の意義と方法について理解、説明できるようになる
3		感覚検査	表坐位感覚の検査～反射導入について理解、説明できるようになる
4		反射検査	表在反射～自律神経反射について理解、説明できるようになる
5		呼吸器疾患	呼吸器疾患概説 気管支喘息 COPDについて理解、説明できるようになる
6		呼吸器疾患	呼吸器疾患概説 肺癌～気胸について理解、説明できるようになる
7		循環器疾患	循環器疾患 総論 血圧について うっ血性心不全について理解、説明できるようになる
8		循環器疾患	循環器疾患 虚血性心疾患について理解、説明できるようになる
9		循環器疾患	循環器疾患 弁膜症 末梢動脈疾患について理解、説明できるようになる
10		消化器疾患	消化器疾患 総論主要徴候 食道炎 食道潰瘍 食道癌について理解、説明できるようになる
11		消化器疾患	消化器疾患 急性胃炎 慢性胃炎～腸閉塞について理解、説明できるようになる
12		消化器疾患	消化器疾患 肝臓、胆嚢、膵臓疾患について理解、説明できるようになる
13		血液造血器疾患	血液、造血器疾患 貧血 白血病 血小板減少症について理解、説明できるようになる
14		腎・尿路疾患	腎、尿路疾患 総論 主要検査 急性糸球体腎炎について理解、説明できるようになる
15		腎・尿路疾患	ネフローゼ症候群 膀胱炎 前立腺肥大症 尿路結石について理解、説明できるようになる

科目名 【英】	基礎鑑別学 Difference Diagnosis Basic			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	3. 4

担当教員	高橋秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	------	-------	---

学習内容	柔道整復師がチーム医療の一員として活躍するために必要な事は、他の職種とスムーズな患者情報の共有と柔道整復師の対応できる疾患の速やかな病態把握である。基礎鑑別学ではこれらの課題を遂行するための基礎知識を学ぶ。特に重篤な後遺症をを招くような注意すべき疾患の兆候に重点を置いて解説する
到達目標	患者の兆候から今後起こりえる病態を考察できるようになる 医療機関との連携が必要であると判断した際に、スムーズな患者情報の提供ができるようになる

準備学習 時間外学習	人体の構造である解剖学 柔道整復術のに関連の深い整形外科学の知識を整理しておくこと
使用教材	全国柔道整復学校協会監修 「医療の中の柔道整復」 有沢 修 著
留意点 備 考	教科書を熟読すること。 板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		鑑別学1	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
2		鑑別学2	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
3		鑑別学3	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
4		鑑別学4	血流障害を伴う損傷 血流障害の兆候を理解し、緊急時の対応が出来るようになる
5		鑑別学5	末梢神経障害を伴う損傷 神経障害の発生機序を理解し、神経障害特有の病態から損傷されている神経の判断が出来る
6		鑑別学6	脱臼骨折 脱臼骨折の状態とその予後について理解する。後遺症の残らない対応の判断が出来る
7		鑑別学7	外出血を伴う損傷 柔道整復術の禁忌症の可能性を念頭に置いた対応が出来るようになる
8		鑑別学8	病的骨折及び脱臼 骨折、脱臼の対応とともに契機となる先行病変について理解し説明できるようになる
9		鑑別学9	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
10		鑑別学10	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
11		鑑別学11	脊髄症状のある損傷 脊髄損傷の症状を重篤化しない対応方法と脊髄損傷を引き起こす外傷について説明できる
12		鑑別学12	呼吸運動障害を伴う損傷 呼吸運動障害を呈する患者の対応と医療機関との連携をスムーズに行うことが出来る
13		鑑別学13	内蔵損傷の合併が疑われる損傷 内蔵損傷の兆候と対応方法を理解しその概要を説明できるようになる
14		鑑別学14	高エネルギー外傷 身体に高エネルギーの外力が加わった際の反応と組織損傷について説明できるようになる
15		鑑別学15	全体のまとめと総復習

科目名 【英】	柔道 3 Judo 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	3. 4

担当教員	中村 義毅	実務者経験	1997年5月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道の技術と礼儀作法を学び、形（手技・腰技）や礼法を習得する。
到達目標	形や礼法を習得し、行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	1年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく
使用教材	柔道衣
留意点 備 考	準備運動としてストレッチや受身を取り外傷を予防する。

成績評価	15回目後に進級実技試験を実施し、柔道実技試験にて評価する。
------	--------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		受身	横・前回り受身を行うことができる。
2		約束乱取 1	大外刈や体落の技の基本を学び行うことができる。
3		約束乱取 2	打込、投込の説明を行う。 背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。
4		約束乱取 3	打込、投込の説明を行う。 背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。
5		形（手技） 1	講道館の形について学ぶ 浮落の形（右投）を学び行うことができる。
6		形（手技） 2	講道館の形について学ぶ 浮落の形（左投）を学び行うことができる。
7		形（手技） 3	浮落の形を左投、右投を行うことができる。
8		形（手技） 4	講道館の形について学ぶ 右背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
9		形（手技） 5	講道館の形について学ぶ 右背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。
10		形（手技） 6	講道館の形について学ぶ 左背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
11		形（手技） 7	講道館の形について学ぶ 左背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。
12		形（手技） 8	講道館の形について学ぶ 肩車の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
13		形（腰技）	講道館の形について学ぶ 浮腰の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
14		復習	礼法、形、約束乱取の練習 進級実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。
15		復習	礼法、形、約束乱取の練習 進級実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。

科目名 【英】	柔整コンディショニング実習 2 Judo Therapy Conditioning Skill Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3.4
担当教員	山田 靖典 / 岩本 暁美		実務者経験	(山田) 2001年～2008年まで整形外科勤務 (岩本) 2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し施術をおこなう			
学習内容	ストレッチングを通じて患者とのコミュニケーション・接し方について学ぶ また解剖学として筋肉を理解する						
到達目標	特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナー資格取得						
準備学習 時間外学習	資格取得にむけた自主練習						
使用教材	特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナーテキスト						
留意点 備 考	出席率 100%により受講資格が発生する						
成績評価	座学 20 問（4 択問題） 60%以上の正答率。実技 3 題の評価						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		ストレッチングについて	ガイダンス。P2～10 ストレッチングについて学ぶ。
2		ストレッチング 下肢	大腿部前面後面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
3		ストレッチング 下肢	大腿内転筋群・股関節前面・後面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
4		ストレッチング 下肢・体幹	股関節後面・胸部のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
5		ストレッチング 体幹・バリエーション	背部・上腕前面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
6		頸部・肩部筋肉の 触診	僧帽筋・肩甲挙筋・胸鎖乳突筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
7		上腕後面・前面の 筋肉の触診	上腕三頭筋・上腕二頭筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
8		背部・腱板の筋肉の 触診	広背筋・棘上筋・棘下筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
9		前腕の筋肉の触診	前腕伸筋群と屈筋群の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
10		臀部の筋肉触診	大殿筋・中殿筋・小殿筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
11		股関節前面の筋肉 触診	腸腰筋/大腿四頭筋・脊柱起立筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
12		股関節後面の筋肉 触診	ハムストリングスの起始停止にキネシオテーピングを貼付。
13		下腿後面の筋肉触診	腓腹筋・ヒラメ筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
14		下腿前面の筋肉触診	前脛骨筋・長母指伸筋・長趾伸筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
15		前期試験	

科目名 【英】	外傷予防理論実習 1 Injury Prevention Conditioning Practices 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	1.2

担当教員	田中 精一	実務者経験	2013年3月より通所介護施設開設。高齢者の転倒による外傷予防を含めた日常生活機能の維持・向上への機能訓練指導を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	高齢化社会において、介護保険制度は高齢者を支える上で大きな柱となっています。特に転倒を含めた外傷の予防、日常生活能力の維持・向上にむけた介護予防等は機能訓練指導員の大きな責務です。柔道整復師はその一員として位置づけられています。今後益々その担い手として介護分野への参画が期待されています。それに伴い、養成校での介護保険制度に対する知識と機能訓練指導員としての技術を習得し、介護業界へ貢献すると共に日本社会における柔道整復師の地位向上へと繋げる事。また、医療分野への就職あるいは独自での開業だけに留まらず、介護分野への参入で将来の生計の幅の広がりを感じていただく事を目的とします。
到達目標	機能訓練指導員として介護保険制度の知識と技術を習得。

準備学習 時間外学習	授業計画を確認し、配布資料・講義内容をもとに予習・復習を行ってください。聞き逃しや疑問点がありましたら質問に来てください。
使用教材	教科書『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	配布したプリントは整理し、授業の度に持参して受講するのが望ましい。

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	柔整師と介護保険	介護保険サービスにおける柔整師の必要性の理解。	
2	柔整師と介護保険	介護保険サービスにおける柔整師の職務の理解。	
3	発達と老化の理解 I	サルコペニアとフレイルの違い。	
4	介護保険制度 認定調査	介護保険制度の理解 認定調査内容の理解	
5	介護保険制度 二人組 認定調査	介護保険制度の理解 認定調査内容の理解と調査体験。	
6	介護区分とサービス	各種介護サービスの理解	
7	介護の過程 I 情報分析	介護支援のための情報分析（基本情報、アセスメント、課題の抽出）	
8	介護の過程 II 居宅介護計画（原案）作成	介護支援のための居宅介護計画の作成能力習得。	
9	ADLの評価法FIM 高齢者の 身体機能	ADLの評価（ランクによる支援の考え方） 歩行とスクワット動作等の確認と指導ポイント	
10	機能訓練指導 機能訓練計画作成	機能訓練指導方法の理解。 個別機能訓練計画作成力	
11	認知症の理解	認知症患者の理解	
12	高齢者介護と I C F	国際障害分類と国際生活機能分類（世界共通の分類）の理解	
13	ロコモティブシンドローム	ロコモテスト方法と評価方法の習得	
14	高齢者救急・高齢者疾患	介護施設における救急と高齢者疾患の理解・我が国と欧米の死生観の違い	
15	試験解答と解説 柔整師と機能訓練指導員 まとめ	筆記試験解答と解説 柔道整復師としての職業選択の幅	

科目名 【英】	柔道整復実技 3 Judo Therapy Practical Training 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月・水曜日	時 限	月3.4 水1.2

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復理論を理解した上で骨折整復を学習する。
到達目標	実習を通じて骨折整復法と固定法をできるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復理論を復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。
使用教材	実技マニュアル、配布プリント
留意点 備 考	副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	実技の期末試験100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼の固定ができるようになる。
2		鎖骨骨折	鎖骨骨折の整復ができるようになる。
3		上腕骨外科頸骨折	上腕骨外科頸骨折を整復できるようになる。
4		上腕骨外科頸骨折	上腕骨外科頸骨折を整復できるようになる。
5		上腕骨顆上骨折	上腕骨顆上骨折を整復できるようになる。
6		上腕骨顆上骨折	上腕骨顆上骨折を整復できるようになる。
7		コーレス骨折	牽引直圧整復法ができるようになる。
8		コーレス骨折	屈曲整復法を整復できるようになる。
9		肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼の固定をできるようになる。
10		鎖骨骨折	鎖骨骨折の整復ができるようになる。
11		上腕骨外科頸骨折	上腕骨外科頸骨折の整復ができるようになる。
12		上腕骨顆上骨折	上腕骨顆上骨折の整復ができるようになる。
13		コーレス骨折	牽引直圧整復法、屈曲整復法ができるようになる。
14		総復習	全ての整復法、固定法ができるようになる。
15		試験の振り返り	全ての項目の振り返りを行い、整復法、固定法をできるようになる。

科目名 【英】	柔道整復実技 4 Judo Therapy Practical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	正木 大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	--

学習内容	前腕骨遠位端部部骨折の各論、顎、肩、肘、肩鎖関節脱臼の整復実技、上腕骨外科頸骨折、橈骨遠位端部骨折の固定法、functional braceによる上腕骨骨幹部骨折の応用固定法、肩鎖関節脱臼のテーピング固定法を学ぶ。
到達目標	2年生の進級実技試験に合格し各骨折、脱臼の国家試験問題が解けるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）参照
使用教材	柔道整復理論 改訂第6版
留意点 備 考	

成績評価	100% 定期試験評価
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	9/28	前腕骨遠位端部骨折	橈骨遠位端部骨折の分類、コーレス骨折の発生機序、骨折線、骨片転位説明できる。
2	10/5	前腕骨遠位端部骨折	コーレス骨折の症状、変形、定型的転位、合併症などが説明できる。
3	10/12	前腕骨遠位端部骨折	コーレス固定法、続発症、後遺症などが説明できる。
4	10/26	前腕骨遠位端部骨折	スミス骨折の発生機序、骨片転位、症状、固定法、後療法の説明ができる。
5	11/2	前腕骨遠位端部骨折	バートン骨折、ショーファー骨折、橈骨遠位端骨端線離開の発生機序、骨片転位、症状、合併症の説明ができる。
6	11/9	肩鎖関節固定実技	進級実技試験にむけた肩鎖関節脱臼のテーピング固定法ができる。
7	11/16	上腕骨骨幹部骨折 機能的装具固定法	サルミエントの機能的装具の作成ができる。
8	11/30	上腕骨骨幹部骨折 機能的装具固定法	サルミエントの機能的装具の作成ができる。
9	12/7	コーレス骨折固定 実技	キャスト材を用いた前腕のシーネの作成を行いコーレス骨折の固定実技ができる。
10	12/14	復習	脱臼の整復法（顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）
11	12/21	復習	脱臼の整復法（顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）
12	1/11	復習	脱臼の整復法（顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）
13	2/1	復習	脱臼の整復法（顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）
14	2/8	復習	脱臼の整復法（顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）
15	2/22	後期試験解答	後期試験問題の解答と解説

科目名 【英】	柔道整復実技 1 Judo Therapy Practical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	1.2

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	医療面接・徒手検査法・反射検査・感覚検査・運動機能検査を学ぶ
到達目標	臨床実習前教育で身につけておく基本的臨床能力を身につける

準備学習 時間外学習	一般臨床医学の検査法・リハビリテーション医学MMT、ROMを参照
使用教材	実技マニュアル・一般臨床医学
留意点 備 考	実技なのでK Cで白Tシャツ・短パン

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		身体触診法	四肢長・四肢周径・MMT・ROM行うことができる。
2		体表解剖	身体各部のランドマーク・大結節・結節間溝・足背動脈・感覚検査を行うことができる。
3		徒手検査 1	ジャクソンテスト・スパーリングテスト・上肢深部健反射・上肢病的反射を行うことができる。
4		徒手検査 2	SLRテスト、FNSテスト、ケンプ徴候、下肢深部健反射、下肢病的反射を行うことができる。
5		徒手検査 3	運動機能検査、（バレー徴候、指鼻試験、ロンベルグ試験）を行うことができる。
6		徒手検査 4	腱板損傷検査法（ペインフルアーク、インピンジメント、ドロップアームテスト）を行うことができる。
7		徒手検査 5	上腕二頭筋検査法（ヤーガソン・スピードテスト・エルボーフレクションテスト）を行うことができる。
8		徒手検査 6	大腿四頭筋検査法（背臥位、座位、腹臥位）を行うことができる。
9		徒手検査 7	ハムストリングス（背臥位、腹臥位）を行うことができる。
10		徒手検査 8	膝関節検査法 1（側方動揺性、アプレー牽引）を行うことができる
11		徒手検査 9	膝関節検査法 2（前方引き出し、ラックマン、Nーテスト）を行うことができる。
12		徒手検査 10	膝関節検査法 3（マックマレーテスト、アプレー圧迫、ワトソングジョーンズ）を行うことができる。
13		徒手検査 11	下腿三頭筋（誘発テスト、トンブソンテスト）を行うことができる。
14		徒手検査 12	足関節（前方引き出し、内反ストレステスト）を行うことができる。
15		徒手検査 13	前期振り返り・総復習

科目名 【英】	柔道整復実技 6 Judo Therapy Practical Training 6			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	上田 益嗣	実務者経験	1995年7月～2024年3月 接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う
------	-------	-------	--

学習内容	下肢の骨折や脱臼についての発生機転・症状を覚えやすい方法で学ぶ。基本的な柔道整復理論を理解することによって、1年次に履修した基礎医学（解剖学・生理学）を通して観察・判断し、適切な処置が出来るような思考法を培い、基本的な処置原則を身につけることを学ぶ。また、3年次に必要な基礎的な知識を学習する。
到達目標	柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科との関連を復習する。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、教科書『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	授業に参加されない方、授業の妨害をされる方は欠課とすることがあります。

成績評価	原則、単元毎に小テストを実施。期末試験100%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	足・足趾骨骨折 1	前回の復習・小テスト・距骨骨折【距骨の解剖・各骨折の分類、発生機転、ホーキンス分類、症状、治療法】。距骨骨折について説明することができる。	
2	足・足趾骨骨折 2	前回の復習・小テスト・踵骨骨折【踵骨の解剖、発生機転、分類、症状、ペーラー角、治療法、留意点、予後】。踵骨骨折について説明することができる。	
3	足・足趾骨骨折 3	前回の復習・小テスト。足根骨骨折【舟状骨骨折&立方骨骨折&楔状骨骨折の分類・発生機序・症状・治療法】舟状骨骨折・立方骨骨折・楔状骨骨折について説明ができる。	
4	足・足趾骨骨折 4	前回の復習・小テスト・中足骨骨折治療法、予後、足趾、趾骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法などを説明することができる。	
5	膝関節部 軟部組織損傷 1	前回の復習・小テスト・半月板損傷・側副靭帯損傷【発生機序・症状・徒手検査・治療法 など】半月板損傷・側副靭帯損傷を説明することができる。	
6	膝関節部 軟部組織損傷 2	前回の復習・小テスト・十字靭帯損傷・発育期の膝関節障害【発生機序・症状・徒手検査・治療法など】。十字靭帯損傷・膝の変形・大腿四頭筋拘縮症について説明することができる。	
7	膝関節部 軟部組織損傷 3	前回の復習・小テスト・発育期の膝関節障害【オスグッド・シュラッター病・ジャンパー膝・分裂膝蓋骨など】。発育期の膝関節障害について説明することができる。	
8	膝関節部 軟部組織損傷 4	前回の復習・小テスト・腸脛靭帯炎・鵞足炎・膝蓋大腿関節障害【発生機序・症状・徒手検査・治療法など】。腸脛靭帯炎・鵞足炎・膝蓋大腿関節障害について説明することができる。	
9	膝関節部 軟部組織損傷 5	前回の復習・小テスト・膝周囲の滑液包関節包の障害・神経障害【発生機序・症状・治療法 など】。膝周囲の滑液包関節包の障害・神経障害について説明することができる。	
10	下腿部 軟部組織損傷 1	前回の復習・小テスト・アキレス腱炎・アキレス腱周囲炎・アキレス腱断裂・下腿の肉離れ・過労性脛部痛【発生機序・症状・治療法など】。下腿の損傷について説明することができる。	
11	足関節捻挫の類症 鑑別 1	前回の復習・小テスト・足関節捻挫・距骨滑車の骨軟骨損傷、足根洞症候群【足部の解剖・発生機序、症状、治療法など】。足関節捻挫や類症鑑別について説明ができる。	
12	足関節捻挫の類症 鑑別 2	前回の復習・小テスト・腓骨筋腱脱臼、衝突性外骨種、三角骨障害【発生機転・症状・治療法 など】足部の軟部組織損傷について説明することができる。	
13	中足部から後足部の 有痛性疾患 2	前回の復習・小テスト・Sever病、アキレス腱滑液包炎、有痛性外脛骨、踵骨棘、足底腱膜炎、第1Kohler病、足根管症候群について説明できる。	
14	前足部の有痛性疾患	前回の復習・小テスト・外反母趾、強剛母趾、種子骨障害、フライバーグ病、モートン病・扁平足について説明できる。	
15	試験解説	後期試験解説・前回の復習・補足	

科目名 【英】	臨床実習 3 Clinical Training 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	2	学 期	夏期集中	曜 日	外部実習	時 限	

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し施術をおこなう。
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	臨床体験、臨床見学を通して、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を修得する
到達目標	1) 臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2) 実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3) 患者に対し、適切な態度で接する。

準備学習 時間外学習	1. 施術所で患者に不快感を与えない身嗜みを整える。 2. 施術者に相応しい挨拶（自己紹介）ができる。 3. 施術所で患者に不快感を与えない態度、適切な言葉づかいができること。 4. 医学的な清潔の意味が説明できること。 5. 施術所の清潔保持の重要性について説明できること。 6. 守秘義務を説明できること。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	出席率 及び 臨床実習評価表にて評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】						
1		基礎実習	1) 柔道整復師として相応しい服装、身嗜み、態度を身に付ける 2) 医療面接の実施 3) ROM、MMTなどを計測、評価の実施 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施 5) 治療器機の効果、禁忌の理解 6) ベッドメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 1) 環境準備 2) 受付業務 3) 患者さんの誘導を実施			
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9		患者さんに対する対応	1) 患者に対して適切な対応ができる。 2) 患者の抱える問題点に共感できる。 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。			
10						
11						
12						
13		施術録作成・症例検討	1) 施術録の記載 2) 症例検討の実施			
14						
15						
16						
17		保険請求	1) 手続きの意義 2) 記載方法の実施			
18						
19						
20						
21		実習期間	時間数	回数	総時間	期間
22			8時間(全日)	6回 (6回目は5時間)	45時間	8月中の1週間
23						

科目名 【英】	課題研究 Project Studies			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	岩本 暁美 / 姫 将司	実務者経験	(岩本) 2007年5月～2010年6月 接骨院に所属 (姫) 2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務
------	--------------	-------	--

学習内容	興味のあるテーマを探し、それに関する基礎的知識および先行研究を調べる。
到達目標	仮説を立て、論理的に説明することができる。 発表を行うことでプレゼンテーション力を身につけることができる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	
留意点 備 考	

成績評価	グループテーマ決め、中間発表、本発表の総合評価
------	-------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		オリエンテーション	オリエンテーションを行い、課題研究の目的、到達目標を全員が理解できる。
2		個人テーマの検討	全員で考え、目的・研究テーマを決定できる。
3		個人テーマの検討	全員で考え、目的・研究テーマを決定できる。
4		グループテーマ決定	全員で考え、目的・研究テーマを決定できる。
5		先行研究調査	テーマに沿った先行研究を探し、論文を要約する。
6		先行研究調査	テーマに沿った先行研究を探し、論文を要約する。
7		先行研究調査	テーマに沿った先行研究を探し、論文を要約する。
8		中間発表	教員の前でグループ発表
9		先行研究調査 ・スライド作成	仮説を正しく説明するための根拠を探す。 テーマに関する基礎的知識を調べる。
10		先行研究調査 ・スライド作成	仮説を正しく説明するための根拠を探す。 テーマに関する基礎的知識を調べる。
11		先行研究調査 ・スライド作成	仮説を正しく説明するための根拠を探す。 テーマに関する基礎的知識を調べる。
12		先行研究調査 ・スライド作成	仮説を正しく説明するための根拠を探す。 テーマに関する基礎的知識を調べる。
13		先行研究調査 ・スライド作成	仮説を正しく説明するための根拠を探す。 テーマに関する基礎的知識を調べる。
14		先行研究調査 ・スライド作成	仮説を正しく説明するための根拠を探す。 テーマに関する基礎的知識を調べる。
15		本発表	教員、1年生の前で発表

科目名 【英】	柔道整復応用講座 1 Couse of Judo Therapy Advanced 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	1.2
担当教員	林 真太郎	実務者経験	2010年～2019年 理学療法士として病院勤務を経て訪問リハも 従事 2019年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事				
学習内容	運動に関する人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。 特に姿勢や歩行、運動発達なども含めた人体の運動の諸要素、各理論について学習する。						
到達目標	空間の中での身体の運動ならびにその原理・理論を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靱帯、筋について説明できる。						
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。						
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	期末試験 100%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動学 1	四肢と体幹の運動【体幹・脊柱・顔面・頭部 1】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解できる	
2	運動学 2	四肢と体幹の運動【体幹・脊柱・顔面・頭部 2】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解し、その役割を説明できる。	
3	運動学 3	姿勢 基本的な立位姿勢について理解し、ヒトの姿勢の観察を通じてこれを想起できる。	
4	運動学 4	歩行 1 歩行についての基本的な事項を理解できる。	
5	運動学 5	歩行 2 歩行についての基本的な事項を理解し、ヒトの歩行の観察を通じてこれを想起できる。	
6	運動学 6	運動発達・運動学習 運動発達や運動学習の方法・過程について理解し、これを想起できる。	
7	運動学 7	運動学総論 ヒトの運動にまつわる諸要素を理解し、ヒトの動きを運動学的用語を用いて説明できる。	
8	運動学 8	まとめ	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

科目名 【英】	柔道整復応用講座 2 Course of Judo Therapy Advanced 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4

担当教員	山本 貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。
------	-------	-------	--

学習内容	リハビリテーション医学の対象となる主要な疾患ごとのリハビリテーションの内容を理解する。 柔道整復師としてリハビリテーション専門職と関わる時の共通言語の理解に繋げる。
到達目標	主要な疾患でのリハビリテーションを理解し説明することが出来る。 専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備 考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動器障害 1	骨折・変形性関節症・骨粗鬆症 高齢者の骨折・骨粗鬆症について説明できるようになる	
2	運動器障害 2	上肢の運動器疾患 上肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる	
3	運動器障害 3	下肢の運動器疾患 下肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる	
4	運動器障害 4	体幹の運動器疾患 体幹の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる	
5	内部障害 1	呼吸機能障害・COPD・在宅酸素療法 呼吸機能障害を説明できるようになる	
6	内部障害 2	心疾患リハビリテーション・運動処方 心臓機能障害を説明できるようになる	
7	スポーツ・障害者 スポーツ	スポーツリハビリテーション・障害者スポーツ スポーツリハビリテーション・障害者スポーツについて概説できるようになる	
8	試験解説・まとめ	後期試験解説 後期で学習した範囲が説明できるようになる	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

科目名 【英】	柔道整復応用講座 4 Course of Judo Therapy Advanced 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	3. 4

担当教員	高橋 秀郎、姫 将司	実務者経験	高橋) 医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月 姫) 2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------------	-------	--

学習内容	柔道整復師の業務に必要な整形外科疾患の知識を得る。 柔道整復業務に必要な情報のやり取りを整形外科医と行う為の基礎知識を学ぶ
到達目標	国家試験整形外科分野の正答率80%を目指す 患者の状態から正しい病態把握ができるようになる 外傷だけでなく整形外科疾患全般の知識を身に着ける

準備学習 時間外学習	解剖学の骨、筋の知識の復習
使用教材	柔道整復学校協会 整形外科学
留意点 備 考	教科書を熟読すること。 板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事

成績評価	定期試験 筆記 100%
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		骨・関節損傷総論	整形外科的治療法 骨・関節損傷総論 骨・関節損傷の概要を説明することが出来るようになる
2		骨折合併症・観血的治療法	骨・関節損傷総論 骨折合併症・観血的治療法 骨折合併症の諸注意と観血的治療の概要を説明することができる
3		骨・関節損傷総論	骨・関節損傷総論 小児骨折の特徴 開放骨折 疲労骨折の概要を説明することが出来るようになる
4		スポーツ整形外科総論	関節の損傷 スポーツ整形外科総論 関節損傷の定義 スポーツ整形の領域について説明できるようになる
5		リハビリテーション総論	スポーツ整形外科総論 リハビリテーション総論 変形・拘縮のリハビリテーションの手順を説明できるようになる
6		リハビリテーション総論	リハビリテーション総論 術後リハビリテーションの手法、スポーツリハビリテーションを説明することが出来るようになる
7		復習	総復習 知識の整理
8		疾患別各論 1	感染性疾患、骨腫瘍、軟部腫瘍について説明することができる。
9		疾患別各論 2	非感染性骨疾患、全身の骨・軟部疾患について説明することができる。
10		疾患別各論 3	骨端症、四肢循環障害、神経・筋疾患について説明することができる。
11		身体別各論 1	頸部、胸部、腰部の損傷について説明することができる。
12		身体別各論 2	肩甲帯および上肢の疾患について説明することができる。
13		身体別各論 3	肩甲帯および上肢の疾患について説明することができる。
14		身体別各論 4	骨盤および下肢の疾患について説明することができる。

15	身体別各論 5	骨盤および下肢の疾患について説明することができる。
----	---------	---------------------------

科目名 【英】	柔道整復応用講座 6 Course of Judo Therapy Advanced 6			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	1.2

担当教員	坂口 道倫	実務者経験	外科の臨床および研究を30年間おこなっている
------	-------	-------	------------------------

学習内容	前期に引き続き、外科学を学び柔道整復の臨床に応用できるように 基礎知識を身につける。
到達目標	前期範囲を含めて、外科的疾患の病態を自ら考えて説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	授業同様、自学習において自ら考える力を養う
使用教材	外科学概論 改訂第4版 南江堂
留意点 備 考	

成績評価	定期試験（90％）＋中間・確認テスト（計10％）で総合評価する。
------	----------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		外科学総論 1	損傷と創傷 損傷の分類を説明できる
2		外科学総論 2	熱傷、炎症、腫瘍 熱傷の分類を説明できる
3		外科学総論 3	消毒、麻酔、手術 消毒薬と特徴について説明できる
4		外科学総論 4	ショック、輸液、心肺蘇生 ショックの定義を説明できる
5		外科学総論 5	移植、出血と止血 移植の用語を説明できる
6		外科学総論 6	総論まとめ 総論の要点をまとめ、説明できる
7		中間テスト	総論の確認 中間試験で及第点がとれる
8		外科学各論 1	脳神経外科疾患 主な脳神経疾患の種類を挙げることができる
9		外科学各論 2	甲状腺、胸壁・呼吸器疾患 胸部損傷での注意点を説明することができる
10		外科学各論 3	心臓・脈管疾患 ASO, TAOの相違点を説明できる
11		外科学各論 4	乳腺疾患、腹部疾患 腹部疾患の症状を説明できる
12		外科学各論 5	腹部疾患 腹部疾患における注意点を説明できる
13		確認テスト	各論まとめ 各論の要点をまとめ、説明できる
14		外科学まとめ	外科学まとめ、受験の心構え 医療者としての心構えを示すことができる
15		学年末まとめ	試験実習 1 模擬試験で及第点がとることができる

科目名 【英】	関係法規 Legal Issues in medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	1.2

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を学ぶ。
到達目標	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を説明することができ、適正な柔道整復師業務を行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	関係法規の予習が必要。
使用教材	教科書『関係法規』、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		法の体系	法の体系について説明することができる。
2		患者の権利	患者の権利について説明することができる。
3		医療過誤とリスクマネジメント	医療過誤とリスクマネジメントについて説明することができる。
4		柔道整復師法の目的・定義	柔道整復師法の目的・定義について説明することができる。
5		柔道整復師免許	柔道整復師免許について説明することができる。
6		柔道整復師名簿	柔道整復師名簿について説明することができる。
7		柔道整復師免許証	柔道整復師免許証について説明することができる。
8		合格証書、合格証明書	合格証書、合格証明書について説明することができる。
9		業務範囲と禁止	業務範囲と禁止について説明することができる。
10		施術所	施術所について説明することができる。
11		広告、罰則	広告、罰則について説明することができる。
12		医療法	医療法について説明することができる。
13		指定登録機関、指定試験機関	指定登録機関、指定試験機関について説明することができる。
14		社会福祉関係法規	社会福祉関係法規について説明することができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔道 4 Judo 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	3. 4

担当教員	中村 義毅	実務者経験	1997年5月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道の技術と礼儀作法を学び、投げの形を習得する。
到達目標	柔道を通して、技だけではなく礼儀作法に重点を置き社会人基礎力を習得する。 投げの形が出来るようになる。

準備学習 時間外学習	1. 2年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく
使用教材	柔道衣
留意点 備 考	準備運動としてストレッチや受身を取り外傷を予防する。

成績評価	実技評価100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		形（腰技） 1	礼法、受身、浮腰を行うことができる。
2		形（腰技） 2	礼法、受身、払腰（右）を行うことができる。
3		形（腰技） 3	礼法、受身、払腰（左）を行うことができる。
4		形（腰技） 4	礼法、受身、釣込腰（右）を行うことができる。
5		形（腰技） 5	礼法、受身、釣込腰（左）を行うことができる。
6		形（腰技） 6	腰技を左投、右投を行うことができる。
7		形（足技） 1	礼法、受身、送り足払い（右）を行うことができる。
8		形（足技） 2	礼法、受身、送り足払い（左）を行うことができる。
9		形（足技） 3	礼法、受身、支え釣り込み足（右）を行うことができる。
10		形（足技） 4	礼法、受身、支え釣り込み足（左）を行うことができる。
11		形（足技） 5	礼法、受身、内股（右）を行うことができる。
12		形（足技） 6	礼法、受身、内股（左）を行うことができる。
13		形（足技） 7	足技を左投、右投を行うことができる。
14		復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。
15		復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。

科目名 【英】	柔道概論 Introduction of Judo			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	1.2

担当教員	林 宏明	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	------	-------	----------------------------------

学習内容	1年生で履修した柔道整復学総論の国家試験対策としての復習を行っていく。
到達目標	柔道整復学総論と各論を結びつかせ引き出すことができ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔整総論 1	骨損傷（分類、症状） 分類・症状の落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。
2		柔整総論 2	骨損傷（合併症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
3		柔整総論 3	骨損傷（続発症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
4		柔整総論 4	骨損傷（後遺症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
5		柔整総論 5	骨損傷（小児・高齢者骨折の特徴、癒合日数、治癒経過、予後、影響因子） 年齢での治癒の違いと、影響因子を理解し、過去問題を解くことができる。
6		柔整総論 6	関節損傷（構造、分類、関節構成組織損傷） 関節構成組織を見直し、過去問題を解くことができる。
7		柔整総論 7	脱臼（分類、症状、合併症、整復障害、予後） 分類・症状などの落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。
8		柔整総論 8	筋損傷と腱損傷 筋・腱損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。
9		柔整総論 9	末梢神経損傷、血管系・リンパ系損傷、皮膚損傷 神経・脈管損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。
10		柔整総論 10	治療法（固定法、後療法） 固定法と後療法のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。
11		柔整総論 11	評価、治療法（整復法、初期処置） 整復法と初期処置のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。
12		柔整実技総論 1	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（損傷の診察、鑑別診断、合併症の有無、説明と同意） 診察の流れを把握することができる。
13		柔整実技総論 2	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（徒手整復、固定法、後療法、治癒の判定、予後） 整復から治癒に至るまでの流れを把握することができる。
14		柔整実技総論 3	肩部の痛みを訴える患者の診察をするときの考え方 鑑別を行い、各疾患の導き出すことができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	後療法学 Arter Treatment of injury			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	4

担当教員	水谷 遼香	実務者経験	2017年～2019年鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。
------	-------	-------	--

学習内容	外傷の経過および治療判断方法を学び、固定除去後の治療法を理解する。 また、臨床に診やすい軟部組織損傷の治療法を学ぶ。
到達目標	学んだことを臨床実習、卒業後の臨床で役立てるよう、説明、実施することができるようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	柔道整復学理論編第7版、柔道整復学実技編第2版、解剖学第2版、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		上肢疾患	肩部軟損（腱板損傷）について理解し、説明できるようになる。
2		上肢疾患	肩部軟損（インピンジメント症候群、上腕二頭筋長頭腱損傷）について理解し、説明できるようになる。
3		上肢疾患	肩部軟損（SLAP損傷、ルーズショルダー、リトルリーガー肩）について理解し、説明できるようになる。
4		上肢疾患	末梢神経障害（腋窩神経、正中神経、尺骨神経、橈骨神経）について理解し、説明できるようになる。
5		上肢疾患	末梢神経障害（腋窩神経、正中神経、尺骨神経、橈骨神経）について理解し、説明できるようになる。
6		上肢疾患	肘関節部の軟損について理解し、説明できるようになる。
7		上肢疾患	前腕、手指の軟損について理解し、説明できるようになる。
8		上肢疾患	手指の軟損について理解し、説明できるようになる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

ト

科目名 【英】	外傷予防理論実習 2 Injury Prevention Conditioning Practices			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成 1 4 年 4 月より鍼灸整骨院開院 院長として勤務する
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	運動生理学の観点から競技者の身体的変化を理解し、予防やトレーニングの基礎知識を習得、また実技により体得する
到達目標	運動生理学の基礎、ストレッチ、トレーニング、競技者の予防について理解を深める

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の復習
使用教材	競技者の外傷予防
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験 1 0 0 点満点
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動生理学 1	オリエンテーション 運動生理学について基礎的な内容と今後の勉強の進め方を理解する	
2	運動生理学 2	レジスタンストレーニング 持久力トレーニングについて 筋力トレーニングの基礎知識を理解する	
3	運動生理学 3	エネルギー代謝 ATP—CP系 解糖系 TCA回路 運動時のエネルギー代謝について理解する	
4	運動生理学 4	筋繊維タイプ アイソメトリックコントラクション アイソトニックコントラクション 筋線維の種類や筋収縮の様式を理解する	
5	運動生理学 5	呼吸中枢 最大換気量 最大酸素摂取量 AT LT 酸素借 運動時の呼吸について理解する	
6	運動生理学 6	循環 競技者の血圧 運動時の循環系についての理解を深める	
7	運動生理学 7	運動とホルモン 性ホルモン 運動時のホルモン分泌について理解する	
8	運動生理学 8	有酸素作業能力 間欠的作業能力 競技者の運動生理学的特徴について理解する	
9	外傷予防概論 1	外傷の発生要因 内的要因 外的要因について理解を深める	
10	外傷予防概論 2	外傷の予防対策 外傷予防の基礎知識を理解する	
11	外傷予防実技 1	タイトネステスト 関節弛緩性テスト 実際の検査法を理解し実践する	
12	外傷予防実技 1	アイシング ストレッチング 実際の方法を理解し実践する	
13	外傷予防実技 1	スポーツマッサージ スポーツテーピング 実際の方法を理解し実践する	
14	外傷予防実技 1	体幹強化トレーニング 下肢安定性向上トレーニング 肩甲帯トレーニングなど 種々のトレーニングについて方法を学び実践する	
15	総復習	理論実技の総復習 理論実技ともに復習し理解を深める	

科目名 【英】	柔整外傷学実習 1 Judo Therapy and Traumatology Practice1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3.4

担当教員	西尾 仁孝	実務者経験	平成3年4月から鍼灸整骨院を開業し、平成16年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	---

学習内容	各種固定法、軟部組織損傷判別テストの習得
到達目標	卒業実技試験及び認定実技試験科目の実技の習得

準備学習 時間外学習	プリントによる予習、実習後の復習
使用教材	実技マニュアル、シナリオプリント
留意点 備 考	包帯、枕子など固定材料の準備物忘れに留意する。 副教材として柔道整復学理論編、実技編の教科書、固定法マニュアルを持参して受講する事が望ましい。

成績評価	実技審査 100%にて評価する
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	肋骨骨折の固定	シナリオに沿って晒、厚紙副子を使用し肋骨骨折部の固定が出来るようになる。	
2	ボクサー骨折の固定	シナリオに沿ってアルミ副子、包帯を使用しボクサー骨折の固定が出来るようになる。	
3	第二PIP関節背側脱臼の固定	シナリオに沿ってアルミ副子、包帯を使用し第二PIP関節背側脱臼の固定が出来るようになる。	
4	アキレス腱断裂の固定	シナリオに沿ってソフトシーネ、包帯を使用しアキレス腱断裂の固定が出来るようになる。	
5	下腿骨骨幹部骨折の固定	シナリオに沿ってソフトシーネ、包帯を使用し下腿骨骨幹部骨折の固定が出来るようになる。	
6	膝関節側副靱帯損傷の固定	シナリオに沿ってテーピングを使用し膝関節側副靱帯損傷の固定が出来るようになる。	
7	足関節外側側副靱帯の固定	シナリオに沿って包帯、厚紙副子を使用し足関節外側側副靱帯の固定が出来るようになる。	
8	足関節外側側副靱帯の固定（テーピング）	シナリオに沿ってテーピングを使用し足関節外側側副靱帯をバスケットウィーブ固定出来るようになる。	
9	足関節外側側副靱帯の固定（テーピング）	シナリオに沿ってテーピングを使用し足関節外側側副靱帯をフィギアエイト固定出来るようになる。	
10	足関節外側側副靱帯の固定（テーピング）	シナリオに沿ってテーピングを使用し足関節外側側副靱帯をヒールロック固定出来るようになる。	
11	大腿四頭筋損傷検査法1、2、3	シナリオに沿って伸張時、収縮時（臥位）、収縮時（座位）疼痛誘発テストが出来るようになる。	
12	ハムストリング損傷検査法1,2	シナリオに沿って伸張時、収縮時疼痛誘発テストが出来るようになる。	
13	アキレス腱断裂検査法	シナリオに沿ってトンプソンテストが出来るようになる。	
14	総復習	各種固定と軟部組織検査法を復習し認定実技審査レベルで出来るようになる。	
15	総復習	各種固定と軟部組織検査法を復習し認定実技審査レベルで出来るようになる。	

科目名 【英】	柔整外傷学実習 2 Judo Therapy and Traumatology Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	3

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	脱臼の診察法および整復法、固定法の座学、実習・実技
到達目標	脱臼の診察法および整復法、固定法を理解して説明することができるようになる。また、これらができるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復理論・実技本・実技マニュアルを復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。
使用教材	実技マニュアル、柔道整復学実技編 改定2版
留意点 備 考	副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	卒業実技試験（脱臼整復）で評価する。
------	--------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	オリエンテーション 肩関節脱臼 1	肩関節脱臼の診察および整復、固定を理解し説明することができるようになる。	
2	肩関節脱臼 2	肩関節脱臼の診察および整復ができるようになる。	
3	肩関節脱臼 3	肩関節脱臼の診察および整復ができるようになる。	
4	肩鎖関節脱臼 1	肩鎖関節脱臼の診察および整復ができるようになる。	
5	肩鎖関節脱臼 2	肩鎖関節脱臼の診察および整復、固定を理解し説明することができるようになる。	
6	肩鎖関節脱臼 3	肩鎖関節脱臼の診察および整復ができるようになる。	
7	肘関節脱臼 1	肘関節脱臼（肘内障含む）の診察および整復、固定を理解し説明することができるようになる。	
8	肘関節脱臼 2	肘関節脱臼（肘内障含む）の診察および整復法ができるようになる。	
9	肘内障	肘内障の診察および整復法ができるようになる。	
10	上腕骨外科頸骨折 1	上腕骨外科頸骨折の診察および整復法ができるようになる。	
11	上腕骨外科頸骨折 2	上腕骨外科頸骨折の診察および整復法ができるようになる。	
12	肩関節部の検査法 1	腱板損傷の診察および検査法ができるようになる。	
13	肩関節部の検査法 2	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察および検査法ができるようになる。	
14	総復習 1	認定実技試験に向けて診察および整復、固定ができるようになる。	
15	総復習 2	認定実技試験に向けて診察および整復、固定ができるようになる。	

科目名 【英】	柔整外傷学実習 3 Judo Therapy and Traumatology Practice 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	3.4
担当教員	宮越 亮典	実務者経験	2006年4月から現在 接骨院勤務 鍼灸あんま及び接骨院全般の業務 2007年4月から2011年3月 病院勤務 機能訓練、鍼灸、整復固定の業務				
学習内容	2022度版柔道整復師国家試験出題基準 必修問題基準の疾患について、診察および整復、固定を理論的に学ぶ。 柔道整復師に必要な項目を中心に、鑑別および実務を学ぶ。						
到達目標	柔道整復師師国家試験に対応できるレベルに到達する。 実務における内容の理解と問題での柔軟性を得ることを目標とする。						
準備学習 時間外学習	柔道整復学理論編 総論の範囲の予習が必要。						
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	授業毎に小テストを実施。期末試験80%＋小テスト20%で評価する。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔整学実習 1	鎖骨定型的骨折 ①診察及び整復 目標：必修問題への取り組み方の理解 鎖骨定型的骨折の診察及び整復の理解ができる
2		柔整学実習 2	鎖骨定型的骨折 ②固定 目標：鎖骨定型的骨折の固定の仕方が理解ができる
3		柔整学実習 3	肩鎖関節上方脱臼 ①診察及び整復 ②固定 目標：肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復、固定の仕方が理解ができる
4		柔整学実習 4	肩関節烏口下脱臼 ①診察及び整復 ②固定 目標：肩関節烏口下脱臼の診察及び整復、固定の仕方の理解ができる
5		柔整学実習 5	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折 ②固定 目標：上腕骨骨幹部 三角筋付着部より遠位骨折の固定の仕方が理解ができる
6		柔整学実習 6	小テスト1 肘関節後方脱臼 ①診察及び整復 ②固定 肘内障 ①診察及び整復 目標：肘関節後方脱臼、肘内障の診察及び整復の理解ができる
7		柔整学実習 7	コーレス骨折 ①診察及び整復 ②固定 目標：コーレス骨折の診察及び整復、固定の仕方の理解ができる
8		柔整学実習 8	第5中手骨頭部骨折 ②固定 肋骨骨折 ②固定 示指PIP関節背側脱臼 ②固定 目標：該当疾患の固定の仕方が理解ができる
9		柔整学実習 9	肩腱板損傷 ①診察 上腕二頭筋長頭腱損傷 ①診察 目標：該当疾患の診察が理解できる
10		柔整学実習 10	膝関節側副靱帯損傷①診察 ②固定 膝関節十字靱帯損傷 ①診察 膝関節半月板損傷①診察 目標：該当疾患の疾患または固定を理解できる
11		柔整学実習 11	大腿部打撲・肉離れ（大腿四頭筋、ハムストリング） ①診察 下腿三頭筋肉離れ ①診察 目標：該当疾患の診察が理解できる
12		柔整学実習 12	小テスト2 アキレス腱断裂②固定 下腿骨幹部骨折 ②固定 目標：該当疾患の固定の仕方が理解できる
13		柔整学実習 13	足関節外側側副靱帯損傷①診察 ②固定 目標：足関節外側側副靱帯損傷の診察及び固定の仕方を理解できる
14		柔整学実習 14	包帯法 目標：各包帯法の走行を把握と理解できる
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔整外傷学実習 4 Judo Therapy and Traumatology Practice 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3

担当教員	赤井 宝・山本 勝行	実務者経験	赤井) 2015年4月～2020年1月まで整形外科に所属し、機能回復訓練および整復、固定を行う。 山本) 山本鍼灸整骨院開業 昭和56年8月～現在に至る
------	------------	-------	---

学習内容	身体運動の表し方や身体の構造、および力学、反射、発達について学び、臨床固定法を習得する。
到達目標	身体運動に関する用語とその内容を把握し、身体運動、反射や発達について、理論的に説明ができるようになる。 臨床固定法を行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	2 年次に習った運動学の復習、過去の国家試験問題を利用した自身の苦手分野の把握が必要。
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント
留意点 備 考	2～3回程度授業開始時に小テストを実施する。

成績評価	期末試験90%＋小テスト10%で評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		運動学習 運動の表し方	運動学習、身体運動に関わる用語について説明できる。
2		身体運動と力学	力学で用いられる用語や構造、法則について説明できる。
3		運動器・神経の構造と機能	運動器や神経の構造と機能について説明できる。
4		運動感覚、反射と随意運動	運動感覚や反射、随意運動について説明できる。
5		姿勢	重心や姿勢について説明できる。
6		歩行	歩行周期や筋の作用、異常歩行について説明できる。
7		運動発達	運動発達について説明できる。
8		テスト返却	テスト返却、解説
9		臨床固定法 1	足関節の固定包帯 足関節のテーピング・固定を行うことができる。
10		臨床固定法 2	指関節固定包帯 指関節のテーピング・固定を行うことができる。
11		臨床固定法 3	中手骨骨折の固定法 中手骨・クラーメル副子固定を行うことができる。
12		臨床固定法 4	指骨骨折の固定 指骨・クラーメル副子固定を行うことができる。
13		臨床固定法 5	Wテープによる足関節の固定法 Wテープの理解・習得をし、固定を行うことができる。
14		臨床固定法 6	Y K テープ療法 I パステープの理論を理解する。
15		臨床固定法 7	Y K テープ療法 II パステープ各論・身体各論への応用を行うことができる。

科目名 【英】	柔整外傷学実習 5 Judo Therapy and Traumatology Practice 5			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属
------	------	-------	---------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。
到達目標	関連領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		生理解剖学総論	身体の基本構造について復習する。
2		生理学総論	人体の基本構造と働きについて復習し理解を深める。
3		体液・血液の生理	体液の性質・特徴・役割について理解を深める。
4		体液・血液の生理	血液の性質・特徴について理解を深める。
5		循環	心臓の構造と働きについて理解を深める。
6		循環	体液・血液循環の調節について理解を深める。
7		呼吸	呼吸器官の構造・呼吸運動について理解を深める。
8		呼吸	血液ガスの体内動態について理解を深める。
9		尿の生成	泌尿器系の構造について理解を深める。
10		尿の生成	尿の生成と体液の調節について理解を深める。
11		神経系	神経系の各部の特徴と働きについて理解を深める。
12		神経系	神経の働きの基本について復習する。
13		神経系	神経系の機能と役割について復習する。
14		神経系	伝導路について復習し、関連疾患の症状と関連を理解を深める。
15		筋肉の構造と機能	筋肉の基本構造について理解を深める。

科目名 【英】	臨床実習 4 Clinical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	3

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	骨折の診察法及び整復法、固定法を実技を通じて学ぶ。
到達目標	臨床の場において実際に活用できるレベルに到達する。 軟部組織損傷の発生機序、検査法のメカニズムを理解し適切な徒手検査を行い、疾病を鑑別することができる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習及び復習が必要である。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編・実技編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	患者の有無により各傷病のシミュレーションを行う。

成績評価	出席評価
------	------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	ガイダンス	国家試験の前期の実習内容、必要教材や教科書の使用方法、実技と必修問題対策、軟部組織損傷検査法	
2	軟部組織損傷の徒手検査法1	①側副靱帯損傷 膝内反外反動揺テスト、牽引アブレイトスト、グラビティテスト ②十字靱帯損傷 引出/押込テスト、ラックマンテスト、サグサイン、N-テスト、グラビティテスト ③半月板損傷 マックマレーテスト、圧迫アブレイトスト、ワトソンジョーンズテスト	
3	鎖骨骨折1	坐位整復法の要点と固定方法を実施できる。	
4	鎖骨骨折2	坐位整復法の要点と固定方法を実施できる。。	
5	上腕骨骨幹部骨折2	ミッドドルフ三角副子を使用して固定方法を実施できる。	
6	上腕骨骨幹部骨折2	ミッドドルフ三角副子を使用して固定方法を実施できる。	
7	コーレス骨折1	（牽引直圧/屈曲）整復法の要点と固定方法を実施できる。	
8	コーレス骨折1	（牽引直圧/屈曲）整復法の要点と固定方法を実施できる。	
9	鎖骨骨折3	復習：坐位整復法の要点と固定方法を実施できる。	
10	上腕骨骨幹部骨折3	復習：ミッドドルフ三角副子を使用して固定方法を実施できる。	
11	コーレス骨折3	復習：（牽引直圧/屈曲）整復法の要点と固定方法を実施できる。	
12	コーレス骨折1	復習：（牽引直圧/屈曲）整復法の要点と固定方法を実施できる。	
13	軟部組織損傷の徒手検査法2	復習：①側副靱帯損傷 膝内反外反動揺テスト、牽引アブレイトスト、グラビティテスト ②十字靱帯損傷 引出/押込テスト、ラックマンテスト、サグサイン、N-テスト、グラビティテスト ③半月板損傷 マックマレーテスト、圧迫アブレイトスト、ワトソンジョーンズテスト	
14	復習	卒業実技試験の実技の振り返り	
15	認定実技審査1	認定実技審査での整復法・固定法・軟部組織損傷徒手検査法の実施時の注意点	
16	認定実技審査2	認定実技審査の実技・固定法の練習	
17	認定実技審査3	認定実技審査の実技・固定法の練習	

18		認定実技審査4	認定実技審査の実技・固定法の練習
19		認定実技審査5	認定実技審査の振返り・後片付け(ソフトスプリント廃棄)
20		整復法と固定法	1. 整復法:鎖骨骨折の臥位整復台を使用した方法を学ぶ 2. クラビクルバンド、肩外転位装具、PTB装具の使用した固定法を学ぶ
21		手技療法1	臨床で行う手技を学ぶ。 マッサージ: 軽擦・圧迫・揉捏・強擦・伸展・振戦の方法を学ぶ。
22		手技療法2	関節モビライゼーションを学ぶ。関節運動の滑り、転がり、回旋運動を使った手技
23		手技療法3	反射区療法を学ぶ。リフレクソロジーを利用した療法。

科目名 【英】	柔整医学演習 1 Medical Practice of Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	1.2

担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務
------	-------	-------	---------------------

学習内容	医学の基礎となる解剖学・生理学を通じ病態を把握できるように学習する また国家試験において重要となる内容を重点的に学習していく
到達目標	国家試験において担当範囲の80%の正答率を全員が獲得できるようにする また解剖生理を理解することで勉強の楽しさを知る

準備学習 時間外学習	配付資料による事前学習
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）、配布資料
留意点 備 考	授業では全員が傾聴できるようにし、小テストに向け自学自習を促せるようにする

成績評価	期末筆記試験70点 小テスト30点（授業内）
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		消化器解剖生理	消化器の役割、大まかな働きを理解する。口腔について理解する
2		消化器解剖生理	食道から横隔膜について解剖の詳細と働きについて理解する
3		消化器解剖生理	胃・腹膜の解剖、消化吸収について理解する。また前回までの内容理解のため小テストを実施
4		消化器解剖生理	小腸の解剖について区別できるようになり消化吸収について理解する
5		消化器解剖生理	大腸の解剖を理解する。消化器全体の流れを理解する。消化器全体の復習小テストを実施
6		肝胆膵解剖生理	肝臓胆嚢膵臓の構造及び働きについて理解する
7		肝胆膵解剖生理	肝臓胆嚢膵臓の構造及び働きについて理解する
8		消化器疾患	一般臨床医学の消化器疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する。
9		消化器疾患	一般臨床医学の消化器疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
10		消化器疾患	一般臨床医学の消化器疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
11		肝胆膵疾患	一般臨床医学の肝胆膵疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
12		肝胆膵疾患	一般臨床医学の肝胆膵疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
13		膠原病	膠原病について一般臨床記載内容を理解する
14		膠原病	膠原病について一般臨床記載内容を理解する
15		試験対策	前期末試験の解答解説

科目名 【英】	柔整医学演習 2 Medical Practice of Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	3. 4

担当教員	田中 勇二	実務者経験	平成2年2月～平成18年3月 たなか整骨院開業 平成18年4月～令和4年3月 養成校にて専科教員を務める
------	-------	-------	---

学習内容	下肢軟部組織損傷について解剖も含めて学ぶ
到達目標	下肢の軟部組織損傷を理解し、臨床の現場で役立つ鑑別診断が出来ることを目指す。

準備学習 時間外学習	軟部組織の基礎知識が必要であると共に興味を持つ事が重要である。
使用教材	教科書「柔道整復学・理論編」
留意点 備 考	臨床的な説明もするのでしっかりとメモを取ることが望ましい。

成績評価	期末テスト（100点満点で85点）、および出席点（欠席1回で1点減点、全出席で15点）で評価する。
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		股関節①	股関節を構成する骨、筋、靱帯、神経を知る
2		股関節②	股関節の軟部組織損傷について知る
3		大腿部	大腿部の軟部組織損傷について知る
4		膝関節①	関節を構成する骨、筋、靱帯、特殊構成体、神経を知る
5		膝関節②	膝関節を構成する靱帯損傷について知る
6		膝関節③	半月板損傷について知る
7		膝関節④	膝関節周辺の損傷について知る
8		下腿部	腿部の軟部組織損傷について知る
9		足関節①	関節を構成する骨、筋、靱帯、神経を知る
10		足関節②	足関節の軟部組織損傷について知る
11		足部①	足部を構成する骨、筋、靱帯、神経を知る
12		足部②	足部の軟部組織損傷について知る
13		まとめ①	臨床事例も含めてまとめる
14		まとめ②	柔道整復学 実技編の内容について解説
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔整医学演習 3 Medical Practice of judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	1.2

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	2015/4～2020/3 接骨院にて勤務
------	--------	-------	-----------------------

学習内容	柔道整復師の問診、視診、打診、聴診など疾病を鑑別するにあたり、必要なスキルを学ぶ。
到達目標	国家試験の問題がスラスラ解けるようになる。

準備学習 時間外学習	講義に関する内容の教科書の読了
使用教材	一般臨床医学、国家試験過去問題
留意点 備 考	

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		診察概論 視診	姿勢について説明が出来るようになる。
2		診察概論 視診	意識状態について説明が出来るようになる。
3		診察概論 視診	不随意運動・異常運動について説明が出来るようになる。
4		診察概論 視診	皮膚の異常について説明が出来るようになる。
5		診察概論 視診	顔面部・頸部の異常を説明出来るようになる。
6		診察概論 視診	胸腹部の異常を説明出来るようになる。
7		診察概論 視診	上肢の異常を説明出来るようになる。
8		診察概論 視診	下肢の異常を説明出来るようになる。
9		診察概論 打診	正常打診と異常打診について説明出来るようになる。
10		診察概論 聴診	正常聴診と異常について説明出来るようになる。
11		診察概論 触診	筋触診と圧痛点を説明出来るようになる。
12		診察概論 触診	リンパ節の腫脹とその疾患について説明出来るようになる。
13		診察概論 感覚検査	表在感覚と深部感覚について説明出来るようになる。
14		診察概論 感覚検査	特殊感覚について説明出来るようになる。
15		診察概論 感覚検査	反射について説明出来るようになる

科目名 【英】	柔整医学演習 4 Medical Practice of Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3.4

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務を行う
------	-------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から病理学、解剖学、を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	病態細胞を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。病理学との関連性を把握する
使用教材	病理学 解剖学 生理学
留意点 備 考	パソコン マウス 使用

成績評価	試験90% 小テスト10%程度を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		病理学とは	【方法、研究試験による分類診察方法】病理学に対する基本的な知識と方法に説明が出来る
2		疾病の一般	【疾病の意義と分類疾病の分類病変と症候】疾病の分類や病気の状態を説明できる
3		細胞障害	【退行性病変、代謝障害、萎縮、変性、壊死】細胞の異常や分類を説明できる
4		代謝障害と疾病	【尿酸代謝異常カルシウム代謝異常、糖尿病、老化、壊死】代謝異常、糖尿病、黄疸などの説明が出来る
5		アポトーシスと死	【死の定義、死の判定、死後の変化】アポトーシスと死の違いを説明できる
6		循環障害1	【血液の循環障害、充血、うっ血虚血、出血血栓症】血液の循環障害やうっ血、虚血について説明できる
7		循環障害2	【塞栓症、梗塞、浮腫、脱水症】梗塞の種類浮腫の成因脱水症の説明が出来る
8		循環障害3	【高血圧症、高血圧症の分類】高血圧の病態生理を説明できる
9		進行性病変	【肥大、過形成、再生、化生】肥大過形成再生化生の分類について説明できるレベル
10		炎症	【炎症の分類炎症の原因炎症の形態による分類】炎症の病理解剖と原因分類を説明できる
11		免疫異常アレルギー1	【免疫の仕組み、免疫不全、後天性免疫不全症候群】免疫の仕組みと抗原、抗体、先天性後天性の免疫不全の説明が出来る
12		免疫異常アレルギー2	【自己免疫疾患、アレルギー】自己免疫疾患とアレルギー反応の分類、病態生理について説明できる
13		腫瘍	【腫瘍の定義、腫瘍細胞、腫瘍の組織構造生体への影響、発がんの原因腫瘍の分類】腫瘍について病態生理、解剖学的診断、分類の説明が出来る
14		先天性疾患	【先天性異常、遺伝子異常、染色体異常、奇形の原因、奇形成立の時期】先天性疾患の説明染色体異常の説明が出来る
15		病因	【病因の一般、内因、外因、遺伝、ストレス】病因の外因、内因について説明が出来る

科目名 【英】	社会保障論 Social Security			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3.4
担当教員	丹生 利博	実務者経験	1985年10月から1993年3月まで、厚生省社会保険庁の淀川と吹田の社会保険事務所で事務官として勤務する。1997年5月から現在まで、にぶ整骨院で、鍼灸、柔道整復の施術をおこなう。				
学習内容	柔道整復師として、開業したときに療養費の受領委任の理解が必要になることから、社会保障論の知識を身につけることを目的とします。						
到達目標	日本の社会保障制度の構造を理解し、柔道整復師として関わる保険制度と施術料金の算定ができるようになる。						
準備学習 時間外学習							
使用教材	テキスト『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』						
留意点 備 考							
成績評価	最終日に行う記述試験 100%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		オリエンテーション、社会保障制度	P1～4 社会保障制度の機能と構造に関して説明ができる
2		社会保険制度とは	P. 5～7 社会保険制度の機能と構造に関して説明ができる
3		医療保険制度とは	P. 7～9 医療保険の目的と現状に関して説明ができる
4		保険診療の仕組みとは	P. 10～14 保険診療の制度の仕組みと現状に関して説明ができる
5		診療報酬制度とは	P. 14～17 診療報酬制度の構造に関して説明ができる
6		柔道整復師業務における療養費とは	P. 19～25 柔道整復療養費の受領委任に関して説明ができる
7		職業倫理とは	P. 49～55 医療従事者の職業倫理に関して説明ができる
8		柔道整復師の社会的責任と対応とは	P. 56～65 医療現場での問題と個人情報保護に関して説明ができる
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

科目名 【英】	柔整応用鑑別学 Judo Therapy Differential Diagnosis Advanced			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	4

担当教員	高橋 秀郎・水谷 遼香	実務者経験	高橋) 医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月 水谷) 2017年～2019年鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。
------	-------------	-------	--

学習内容	柔道整復術が適用される疾患の鑑別
到達目標	脱臼範囲の国家試験範囲を習得する

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『施術の適応と医用画像の理解』（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		医用画像1	放射線の概要やX線像の一般撮影法を理解し、説明することができるようになる。
2		医用画像2	画像のデジタル化、CT画像の特性を理解し、説明することができるようになる。
3		医用画像3	MRIの見方を理解し、説明することができるようになる。
4		医用画像4	超音波画像装置について理解し、説明することができるようになる。
5		医用画像5	X線画像などを読影することができるようになる。
6		医用画像6	X線画像などを読影することができるようになる。
7		医用画像7	X線画像などを読影することができるようになる。
8		医用画像8	X線画像などを読影することができるようになる。
9		柔道整復術の適否	施術の適応判断の必要性について理解し、説明することができるようになる。
10		類似疾患1	損傷に類似した症状を示す内臓疾患を柔道整復術の適応症であるか峻別できるようになる。
11		類似疾患2	腰痛を訴える患者の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
12		血流障害・末梢神経損傷を伴う損傷	血流障害・末梢神経損傷を伴う損傷の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
13		脱臼骨折・外出血を伴う損傷	脱臼骨折が疑われる場合・外出血がある場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
14		意識障害・脊髄症状のある損傷	意識障害や脊髄症状がみられる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。

15		呼吸運動障害を伴う損傷	異常呼吸がみられる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
----	--	-------------	--

科目名 【英】	柔整医学演習 5 Medical Practice of Judo Therapy 5			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	国家試験に必要な知識を取得し、また卒後に役立つ知識を幅広く取得する。
到達目標	国家試験の出題傾向を知り、80%の問題を解くことができるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第4版（南江堂）、一般臨床医学改定3版（医歯薬出版） 配布プリント
留意点 備 考	授業終了後に講義内容の問題を網羅しておく。

成績評価	期末試験100%（筆記）
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		内分泌総論	出題数の多い内分泌について総論を理解する。
2		内分泌解剖生理 1	下垂体のホルモンを理解する。
3		内分泌解剖生理 2	頸部のホルモンを理解する。
4		内分泌解剖生理 3	胸腹部のホルモンを理解する。
5		内分泌解剖生理 4	生殖器ホルモンを理解する。
6		内分泌疾患 1	解剖生理を元にした内分泌の疾患を理解する。
7		内分泌疾患 2	頭部から胸部にかけた内分泌疾患を理解する。
8		内分泌疾患 3	腹部以降の内分泌疾患を理解する。
9		泌尿器解剖分野 1	泌尿器の構造仕組みを理解する。
10		泌尿器解剖分野 2	泌尿器全体像を把握し理解する。
11		泌尿器生理分野 1	泌尿器のはやらきを理解する。
12		泌尿器生理分野 2	泌尿器全体像を把握し理解する。
13		泌尿器疾患 1	腎疾患における特徴を知り理解する。
14		泌尿器疾患 2	腎臓実質における疾患を理解する。
15		泌尿器疾患 3	腎以外の泌尿器疾患を理解する。

科目名 【英】	柔整医学演習 6 Medical Practice of Judo Therapy 6			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属
------	------	-------	---------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。
到達目標	それぞれの領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋肉の構造と機能	筋肉の収縮機構について理解を深める。
2		筋肉の構造と機能	筋肉の種類とその特徴について理解を深める。
3		感覚器官系	感覚系の分類・特殊感覚について復習し理解を深める。
4		感覚器官系	特殊感覚についてその構造と機能の理解を深める。
5		感覚器官系	一般感覚について特徴と働きの理解を深める。
6		感覚器官系	各種感覚の伝導路について理解を深める。
7		内分泌	内分泌系の機能と構造について理解を深める。個々のホルモンの働きを再確認して理解する。
8		生殖	生殖器系の発生、それぞれの働きについて理解を深める。
9		生殖	性周期・妊娠でのホルモンの変化について理解を深める。
10		骨	骨の形成に関与するホルモンについて理解を深める。
11		消化吸収	消化器系の構造と消化酵素について理解を深める。
12		消化吸収	消化器系の機能調節方法について理解を深める。
13		代謝・体温	栄養素の体内での変化と体温調節について理解を深める。
14		成長・競技 の生理的变化	成長・競技に伴う身体の生理的变化について理解を深める。
15		総合復習	苦手領域の補足を行う。国家試験問題で学習内容の総復習を行う。

科目名 【英】	柔整医学演習 7 Medical Practice of Judo Therapy 7			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3.4

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務に従事する
------	-------	-------	-----------------------

学習内容	現代医学的な観点から、外科学を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	外科学を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。運動学と外科学の関連性を把握する
使用教材	外科学 副材料として解剖学生理学を持参する
留意点 備 考	パソコン マウス 使用

成績評価	試験 90% 小テスト 10%を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		外科学とは	外科学の歴史を学び現代との相違点を理解し説明を行う事が出来る
2		損傷	損傷の分類 損傷の治癒 交通事故外傷 特殊な損傷 熱傷を理解し説明する事が出来る
3		損傷	救急処置 熱傷の合併症を理解 気道熱傷 その他の損傷を理解し 説明する事が出来る
4		炎症と外科感染症	感染発症のメカニズム 静脈瘤 梅毒 真菌症 動物の噛み傷を理解し説明できる
5		腫瘍	概念 発がん 分類良性 悪性 上皮性 非上皮性癌を理解し説明する事が出来る
6		ショック	心臓性 血液分布異常性 閉塞性ショック血圧 対処法を理解し説明できる
7		輸血と輸液	輸血の適用 一般輸血 高カロリー輸液について理解し説明できる
8		消毒と滅菌	主な消毒薬 皮膚消毒 機械の消毒 エチレンガス滅菌について説明できる
9		手術	手術の分類 各種手術法 皮膚切開 止血 結紮について理解し説明できる
10		麻酔	概要 全身麻酔 局所麻酔 気管挿管 神経ブロック 緩和ケアについて理解説明できる
11		移植と免疫	同系移植 同種移植 臓器の保存について理解し説明できる
12		出血と止血	出血の分類 出血血管の分類 原因について理解し説明できる
13		出血と止血	鼻出血 喀血 吐血 腹腔内出血器械的止血 物理的止血 化学的止血について理解し説明できる
14		救急処置	新派蘇生法 心臓マッサージ 人工呼吸 AEDNIについて理解し説明できる
15		テストの解説	テストの解説をし相互理解を深め 国家試験合格に向けて理解する

科目名 【英】	柔整医学演習 8 Medical Practice of Judo Therapy 8			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3.4

担当教員	姫 将司・水谷 遼香	実務者経験	姫) 2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る 水谷) 鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、 機能訓練指導員として従事。
------	------------	-------	--

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。 柔道整復師において必要なリハビリテーション医学ならびに機能訓練の知識を修得する。
到達目標	国家試験レベルの問題を6割正解できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学、生理学、運動学の復習をおこなうことを勧める。
使用教材	P C / 教科書『リハビリテーション医学』『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	後期末試験（筆記 100%）で評価する。
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	リハ医学の概念 1	リハビリテーション医学概論【概念・障害レベル】 障害分類について説明できる。	
2	リハ医学の概念 2	リハビリテーション医学概論【障害レベル・アプローチ・チーム医療】 障害分類に対応するアプローチについて説明できる。	
3	基礎医学	リハビリテーションに関する基礎医学【障害学・神経解剖・神経生理・神経損傷】 末梢神経麻痺・中枢神経麻痺の違いについて説明できる。	
4	評価と診断	評価と診断【A D L】 ADLと評価法について説明できる。	
5	治療学 1	治療【理学療法・作業療法】 理学療法と作業療法の違いについて説明できる。	
6	治療学 2	治療【装具療法】 補装具の名称と適応について説明できる。	
7	リハビリの実際 1	各論【脳卒中①】 脳卒中の病態について説明できる。	
8	リハビリの実際 2	各論【脳卒中②】 脳卒中のリハビリテーションについて説明できる。	
9	発達と老化の理解	サルコペニアとフレイルの違い、老化・高齢者特有疾患についてについて理解し、説明することが出来るようになる。	
10	認知症の理解	認知症の原因・種類・症状・対応などについて理解し、説明することが出来るようになる。	
11	ロコモティブシンドローム	原因・ロコモテスト方法・評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。	
12	介護保険制度	介護保険・要介護度・各種介護サービスについて理解し、説明することが出来るようになる。	
13	高齢者介護と I C F	高齢者介護における目標、ICF、機能訓練実施計画書について理解し、説明することが出来るようになる。	
14	機能訓練指導 I	機能訓練指導員の定義、機能訓練の流れ、機能訓練身体能力測定方法と評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。	

15	機能訓練指導Ⅱ	機能訓練の運動・要点・注意点について理解し、説明することが出来るようになる。
----	---------	--

科目名 【英】	柔整医学演習 9 Medical Practice of Judo Therapy 9			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	3.4

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	国家試験の必修問題に出題される実技範囲について学ぶ
到達目標	国家試験の必修問題を解くことができる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』『柔道整復学 実技編』 配布プリント
留意点 備 考	柔道整復学理論編と実技編の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		定型的鎖骨骨折	定型的鎖骨骨折について説明することができる
2		上腕骨外科頸外転型骨折	上腕骨外科頸外転型骨折について説明することができる
3		上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折について説明することができる
4		コーレス骨折	コーレス骨折について説明することができる
5		第5中手骨頸部骨折	第5中手骨頸部骨折について説明することができる
6		肋骨骨折	肋骨骨折について説明することができる
7		肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼について説明することができる
8		肩関節烏口下脱臼	肩関節烏口下脱臼について説明することができる
9		肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼について説明することができる
10		肘内障	肘内障について説明することができる
11		示指PIP関節背側脱臼	示指PIP関節背側脱臼について説明することができる
12		腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷について説明することができる
13		大腿部打撲、肉離れ	大腿部打撲、肉離れについて説明することができる
14		膝関節軟部組織損傷	膝関節軟部組織損傷について説明することができる
15		足関節軟部組織損傷	足関節軟部組織損傷について説明することができる

科目名 【英】	柔整医学演習 10 Medical Practice of Judo Therapy 10			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	3.4

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し施術をおこなう。
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	過去問をベースに各部位の軟部組織損傷を鑑別できるようになる。
到達目標	国家試験合格レベルに到達する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	股関節の 軟部組織損傷 1	鼠径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群を理解する	
2	股関節の 軟部組織損傷 2	股関節外転位拘縮、内転位拘縮、屈曲位拘縮について理解する	
3	股関節の 軟部組織損傷 3	ペルテス病、大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死症、変形性股関節症について理解する	
4	股関節の 軟部組織損傷 4	国試過去問で振り返り、問題解説を行う	
5	大腿部の 軟部組織損傷 1	筋損傷の総論を振り返り、大腿部打撲、大腿四頭筋の肉ばなれについて理解する	
6	大腿部の 軟部組織損傷 2	ハムストリングスの肉ばなれについて理解し、 国試過去問で振り返り、問題解説を行う	
7	下腿部の 軟部組織損傷 1	アキレス腱炎、周囲炎、断裂、下腿三頭筋の肉ばなれについて理解する	
8	下腿部の 軟部組織損傷 2	シンスプリント、下腿コンパートメント症候群について理解し、 国試過去問で振り返り、問題解説を行う	
9	膝関節の 軟部組織損傷 1	Osgood-Schlatter病、ジャンパー膝、分裂膝蓋骨、腸脛靭帯炎、鵞足炎、分裂膝蓋骨、 膝蓋軟骨軟化症、タナ障害、膝蓋大腿関節症について理解する	
10	膝関節の 軟部組織損傷 2	膝周囲の滑液包異常、総腓骨神経麻痺、ハンター管症候群について理解し、 国試過去問で振り返り、問題解説を行う	
11	足関節の 軟部組織損傷 1	足関節捻挫、脛腓靭帯結合部損傷、二分靭帯損傷、足根洞症候群について理解する	
12	足関節の 軟部組織損傷 2	腓骨筋腱脱臼、衝突性外骨腫、三角骨障害、有痛性外脛骨、踵骨棘および足底腱膜炎 足根管症候群、外反母趾、扁平足障害について理解する	
13	足関節の 軟部組織損傷 3	国試過去問で振り返り、問題解説を行う	
14	総復習	下肢軟損の総復習を行い、鑑別ができるようになる	
15	総復習	下肢軟損の総復習を行い、鑑別ができるようになる	

科目名 【英】	柔整医学演習 1 1 Medical Practice of Judo Thrapy 11			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	服部 博幸	実務者経験	1992年より病院並びに学校にて、鍼灸および柔道整復施術を行う。2016年より通所介護事業も立ち上げ、従事している。
------	-------	-------	--

学習内容	上肢および下肢の骨折及び脱臼について部位ごとに学ぶ。
到達目標	臨床の場で使えるよう受傷原因から総合的に外傷を判断できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	欠席された場合、次の授業に差し支えないよう配布プリントは事前にとりに来てください。

成績評価	筆記試験結果（100%）を元に評価する。
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	柔道整復学演習 1	【練習問題とそのフィードバック】 代表的な過去の国家試験問題を解き、現在の知識レベルを確認する。	
2	柔道整復学演習 2	【手・手指部の骨折・脱臼1】 手根骨骨折と脱臼について、理解を深める。	
3	柔道整復学演習 3	【手・手指部の骨折・脱臼2】 中手骨骨折と脱臼について理解を深める。	
4	柔道整復学演習 4	【手・手指部の骨折・脱臼3】 指骨の骨折と脱臼について理解を深める。	
5	柔道整復学演習 5	上肢の神経損傷 正中・頭骨・尺骨神経麻痺について、理解を深める。	
6	柔道整復学演習 6	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 1】 骨盤骨骨折について理解を深める。	
7	柔道整復学演習 7	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 2】 股関節脱臼について理解を深める。	
8	柔道整復学演習 8	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 3】 大腿骨骨折について理解を深める。	
9	柔道整復学演習 9	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 4】 膝関節・膝蓋骨+脱臼、下腿骨骨折について理解を深める。	
10	柔道整復学演習10	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 5】 下腿骨遠位端骨折について理解を深める。	
11	柔道整復学演習11	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 6】 足根骨骨折と脱臼について理解を深める。	
12	柔道整復学演習12	【上肢の骨折・脱臼 1】 上腕骨骨幹部骨折・肘周辺の骨折について理解を深める。	
13	柔道整復学演習13	【上肢の骨折・脱臼 2】 モンテギア・ガレアジ骨折、橈骨遠位端骨折について理解を深める。	
14	柔道整復学演習14	【総合復習】 難度の高い傷病について、再度確認し、理解を深める。	
15	柔道整復学演習15	【試験解説】	

科目名 【英】	柔整医学演習 1 2 Medical Practice of Judo Therapy 12			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	3. 4

担当教員	井上 亜久吏・堀口 晃一	実務者経験	井上) 2015/4～2020/3接骨院にて勤務 堀口) 整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	--------------	-------	--

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	別問題を用いて復習を徹底する。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、配布プリント 『衛生学』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	筆記100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	神経系①	解剖学的神経系基礎に関する問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。	
2	神経系②	神経生理学基礎における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。	
3	神経系③	中枢神経系における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。	
4	神経系④	中枢神経系における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。	
5	神経系⑤	反射について問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。	
6	神経系⑥	神経性調節について問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。	
7	神経系⑦	脊髄神経系における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。	
8	衛生学	健康の概念・疾病予防と健康管理の国家試験を理解できるようにする。	
9	衛生学	感染症の予防の国家試験を理解できるようにする。	
10	衛生学	消毒の国家試験を理解できるようにする。	
11	衛生学	環境衛生の骨化試験を理解できるようにする。	
12	衛生学	生活環境・母子保健の国家試験を理解できるようにする。	
13	衛生学	学校保健・産業保健の国家試験を理解できるようにする。	
14	衛生学	成人・高齢者保険、精神保健の国家試験を理解できるようにする。	
15	衛生学	疫学・衛生行政・地域保健の国家試験を理解できるようにする。	

科目名 【英】	柔整医学演習 1 4 Medical Practice of Judo Therapy 14			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	3. 4

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	2015/4～2020/3 接骨院にて勤務
------	--------	-------	-----------------------

学習内容	西洋医学系の病気にまつわる内容を機序から症状、治療に関しての幅広い内容を学ぶ。
到達目標	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	時間外で問題等を使用し、復習および理解度を図り、次に繋げていけるようになる事が必須である。
使用教材	PC 配布資料 教科書【一般臨床医学 解剖学 生理学 病理学（南江堂）】
留意点 備 考	強い気持ちを持って臨む

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	神経系疾患 1	脳卒中について説明することができる	
2	神経系疾患 2	パーキンソン病について説明することができる	
3	神経系疾患 3	伝導路疾患について説明することができる	
4	神経系疾患 4	筋萎縮性側索硬化症について説明することができる	
5	神経系疾患 5	脳神経が障害される疾患について説明できる	
6	筋系疾患 1	進行性筋ジストロフィーについて説明することができる	
7	筋系疾患 2	重傷筋無力症について説明することができる	
8	循環器疾患 1	虚血性心疾患について説明することができる	
9	循環器疾患 2	心臓弁膜症について説明することができる	
10	循環器疾患 3	先天性心疾患について説明することができる	
11	呼吸器疾患 1	慢性閉塞性肺疾患について説明することができる	
12	呼吸器疾患 2	肺炎、肺癌について説明することができる	
13	血液疾患 1	貧血疾患について説明することができる	
14	血液疾患 2	汎血球減少症について説明することができる	
15	総まとめ	全ての疾患の総ざらいを行い国家試験に対応できる説明力をつける	

科目名 【英】	柔整医学演習 15 Medical Practice of Judo Therapy 15			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	3.4

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	-------	-------	-------------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行う。
到達目標	卒後に役立つ知識、技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	配布したプリントを復習する
使用教材	柔道整復学理論編、実技編、解剖学
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		骨盤部の損傷	骨盤骨折について理解し説明することができる。
2		股関節部の損傷 1	大腿骨頭部骨折、大腿骨頸部骨折について理解し説明することができる。
3		股関節部の損傷 2	大腿骨転子部骨折、大腿骨転子下骨折、股関節脱臼 1 について理解し説明することができる。
4		股関節部の損傷 3	股関節脱臼 2 について理解し説明することができる。
5		大腿部の損傷	大腿骨骨幹部骨折について理解し説明することができる。
6		膝関節部の損傷 1	大腿骨顆上骨折、大腿骨骨端線離開、大腿骨顆部骨折、内側側副靱帯付着部の裂離骨折について理解し説明することができる。
7		膝関節部の損傷 2	脛骨顆部骨折、脛骨顆間隆起骨折について理解し説明することができる。
8		膝関節部の損傷 3	脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折について理解し説明することができる。
9		膝関節部の損傷 4	膝関節脱臼、膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼について理解し説明することができる。
10		下腿部の損傷 1	下腿近位端部骨折、下腿骨幹部骨折について理解し説明することができる。
11		下腿部の損傷 2	下腿遠位端部骨折、足関節の脱臼骨折について理解し説明することができる。
12		足関節部の損傷	足根骨骨折、足関節の脱臼、中足骨骨折について理解し説明することができる。
13		足・趾部の骨折 鎖骨部の損傷	趾骨骨折、鎖骨骨折、鎖骨の脱臼について理解し説明することができる。
14		肩関節部の損傷 1	上腕骨近位端部骨折について理解し説明することができる。
15		肩関節部の損傷 2	上腕骨骨幹部骨折について理解し説明することができる。

科目名 【英】	柔整医学演習 1 6 Medical Practice of Judo Therapy 16			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	1. 2

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	疾病の機能解剖や発生機序・症状・所見・検査法・治療法を学ぶ。 各傷病の部位と病態を関連して学ぶ。
到達目標	疾患の特徴を説明し、柔道整復師国家試験の問題解説ができる。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要である。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験を実施し100%評価する。
------	-------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	認定実技審査	骨折（鎖骨骨折など）の整復法・固定法
2	認定実技審査	脱臼（肩関節脱臼など）の整復法・固定法
3	認定実技審査	軟部組織損傷（肩腱板損傷など）の徒手検査法
4	認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
5	認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
6	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
7	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
8	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
9	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
10	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
11	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
12	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
13	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
14	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
15	定期試験	軟部組織損傷について基礎的な問題を答えることができる。

科目名 【英】	柔整医学部演習 1 7 Medical Practice of Judo Thrapy 17			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成 1 4 年 4 月より鍼灸整骨院開院 院長として勤務する
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	認定実技審査、国家試験にむけて
到達目標	鎖骨骨折、外科頸骨折、コーレス骨折、足関節損傷の整復及び固定 外科学概論をテーマとして臨床実地問題が解けるレベルに達する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		国家試験対策	運動学分野の国家試験問題、臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
2		国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
3		国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
4		国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
5		国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
6		国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
7		国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
8		国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			